

1 2 月 5 日 (第 2 号)

平成24年第5回豊能町議会定例会会議録目次

平成24年12月5日（第2号）

出席議員	1
議事日程	2
開議の宣告	3
(一般質問)		
豊政クラブ	竹谷 勝	3
豊民クラブ	井川 佳子	1 1
	橋本 謙司	2 2
町政会	永並 啓	3 3
豊能第一クラブ	平井 政義	4 5
	小寺 正人	5 5
	川上 勲	6 4
散会の宣告	7 3

平成24年第5回豊能町議会定例会会議録（第2号）

年 月 日 平成24年12月5日（水）

場 所 豊能町役場議場

出席議員 14名

1番	橋本 謙司	2番	井川 佳子
3番	高橋 充徳	4番	岩城 重義
5番	小寺 正人	6番	山下 忠志
7番	永並 啓	8番	竹谷 勝
9番	福岡 邦彬	10番	秋元美智子
11番	平井 政義	12番	高尾 靖子
13番	西岡 義克	14番	川上 勲

欠席議員 0名

地方自治法第121条の規定により議会に出席を求めた者は、次のとおりである。

町 長	田中 龍一	総務部長	乾 晃夫
教 育 長	小川 照夫	建設環境部長	川上 和博
生活福祉部長	上林 勲	教 育 次 長	桑田 良彦
上下水道部長	高 秀雄	会 計 管 理 者	上西 悦子
消 防 長	西本 好美		

本会議に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長	乾 利昭	書 記	杉田 庄司
書 記	高橋 欣也		

議事日程

平成24年12月5日（水）午前9時30分開議

日程第 1 一般質問

開議 午前9時30分

○議長（福岡邦彬君）

皆様、おはようございます。

開議前ですが、議員各位にお知らせいたします。本日、12月5日と、明日の6日の一般質問のみ、ビデオカメラによる議会放映用のテスト撮影行いますので、御了承、お願いいたします。また、傍聴者の方々にお願い申し上げます。先ほど申しましたように、ビデオカメラによる議会放映用のテスト撮影を行いますので、議場の構造上、やむを得ず傍聴者の方々が映ることがありますが、あらかじめ御了承いただきますようお願い申し上げます。

今議会の映像は、あくまでもテストのため、インターネット配信は行いません。来年3月議会よりインターネット配信を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

ただいまの出席議員は14名であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございます。

日程第1「一般質問」を行います。

順次発言を許します。

質問者は質問者席に登壇して、質問を行ってください。

豊政クラブの一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて40分とします。

竹谷勝議員を指名いたします。

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

皆さん、おはようございます。

8番、竹谷勝でございます。

久しぶりにトップバッターとして一般質問を行います。理事者の皆さんには、丁寧

な御答弁をお願いいたします。

昨日、衆議院選挙が告示をされ、選挙戦がスタートをいたしました。日本経済の活性化や将来世代に向けて建設的な政策論争を期待するものであります。

さて、田中町長にとりましては、就任をされて初めての定例議会、そして、一般質問ということで、大変緊張されていることと察します。ぜひ、豊能町の未来のために建設的な議論になりますように、よろしくをお願いしておきます。

去る10月19日、臨時議会に述べられました所信表明を中心に、通告に従って質問を進めさせていただきます。

まず、まちづくりの理念について、町政を運営していくためにはしっかりとした豊能町のまちづくりの理念が重要です。その理念に基づいて政策を立案し、実行、進めていくことが大切です。

まず、田中町長が目指す豊能町のまちづくりの理念について、お伺いをいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

竹谷議員の御質問に対しまして、お答え申し上げます。

町政を運営していくためには、議員の御指摘のとおり、まちづくりの理念に基づいて政策を立てることが非常に重要でございます。私のまちづくりの基本理念は、公約、所信表明にも申し上げましたように、赤ちゃんからお年寄りまで、いつまでも安心して暮らせる町の実現でございます。その実現に当たりましては、住民目線で行政改革を実施し、行政だけでなく、住民、NPO、企業と協働でまちづくりを行い、豊能町を活性化し、住みよいまちづくりを行ってまいります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

私も何度か町長の所信表明を読ませていただきました。けさも来るときに一読させていただきました。今おっしゃいましたように、まず、一つは住民目線で取り組んでいきたいというようなことを理念の一つに挙げられておりました。それが、最後のほうに赤ちゃんからお年寄りまで、いつまでも安心して暮らせる町の実現ということで、これが田中町長の理念であろうと、私なりに理解をしておりました。この理念に基づいて、おのおの政策が述べられておると思います。この政策を遂行していくためには、トップであります首長のリーダーシップが大変重要になってくると思います。その政策の実現のために、今後、取り組んでいかれる田中町長のリーダーシップについてお聞きをしていきたいと思っております。

今、豊能町政は厳しい財政をはじめ大変な時期に来ていると思っております。トップである町長のリーダーシップが、まさに重要になっていると思っております。田中町長は、リーダーシップについて、どのような方針で今後、取り組まれるか、まず、お伺いをいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

竹谷議員の御質問に対して、御回答を申し上げます。今回の所信表明をもとに、それぞれのリーダーシップを図るに当たりましては、今回の所信表明をもとに、それぞれの部、課、担当者で、それぞれの目標を設定して提出していただき、目標の進捗管理を行うことによってリーダーシップをと

っていきたいと思っております。

また、この所信表明の内容に直接的に関係しないようなことにつきましては、いずれの部署にも共通する基本的な四つの考え方、一つは住民サービスの徹底、一つは経費の削減、もう一つは歳入の増加、もう一つは働きやすい効率的な職場の実現、この以上、四つの、どの部署にも共通する、こういった目標管理について、それぞれの目標を出していただくかと思っております。

なお、この四つの考え方については、今後、町内に張り出す予定をしております。職員や住民の皆様にはわかりやすい、親しみのある表現について、今、職員の皆様に提案を募集しているところでございます。

さらに、毎月、全職員を対象として朝礼などもございますので、その都度、職員の方にも直接語りかけるといったことでの、リーダーシップを発揮していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

私は、トップのリーダーシップに必要なこと、大切なことは、私なりに考えますと、まず、一つ目は、やはり仕事がきちりどできること。これは知識であり、人脈であり、統率力、あるいは交渉力、そういった仕事のできること。

二つ目といたしましては、人材の育成、そういったことに熱意のあること、要は人を育てるというようなことが大事かなと。

三つ目といたしましては、首長になりますと、いろいろな場面において、決断をすることが必要になってきますけれども、しっかりと状況を正確に把握して判断し、決断し、意思決定をしていくと。この三つが、私は大事なことであると思っております。

その中でも特に重要なのが、先ほど町長もおっしゃってましたように、つながると思うんですけども、人材育成が、私は最も重要ではないかなと考えております。先ほど、四つの基本的な考え方を述べられ、意識改革を進めていくということもおっしゃってございましたけども、さらに人材育成について、田中町長の考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

竹谷議員のただいまの質問に対して、お答えいたします。人材育成に対してでございますけれども、一つは、先ほど申しましたような目標を掲げることによりまして、一般の住民の方からも見ていただく。そういったことも意識しながら仕事をしていただくということは日常的な人材育成になるかと思っております。

それと、要は職員の研修制度でございます。このたびも業務改善研修というものが、結果の報告がなされました。その中でも、さまざま素晴らしい提案もございましたので、そういった提案も、具体的に実現する。そういったことによりまして、提案したことが実現する。そうすれば、また、やる気が起こっていくといったことで、自発的なやる気が起こっていくといった、こういった形でも人材育成ということは発揮できるのではないかと思っております。

以上のような手法で、人材育成を図ってまいりたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

それでは、さらに進めてまいります。人材育成には、やはり先ほど言いましたよう

に日々の研修、啓発等は、もちろん必要なんですけども、やはり目標管理をきっちりしていただいて、仕事に対する成果を公平、公正に評価をしていただくと、そういったことが一番大事なことはないかなと思います。そうすることによって、職員のモチベーション、やる気が、あるいは意欲が向上し、活気のある職場になってくるんじゃないかと思っております。

そういったことが、やはり首長のリーダーシップを発揮する大きな要素になってくるのではないかなと思います。今後も、そういった積極的な研修の採用とか、目標管理をきっちり進めていっていただいて、町長のリーダーシップを発揮していただいて、政策の実現に取り組んでいただきたいと思っておりますけども、目標管理、その辺の制度が、なかなか公務員の世界では難しいというふうに聞いておるんですけども、そういったことも取り入れるべきではないかなと思うんですけども、町長の考えをお伺いをいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの竹谷議員の質問に対して、お答えいたします。目標管理の重要性につきましては、議員、おっしゃるとおり非常に大事なことだと思っております。一つは、先ほど申しましたような日々のことで、日常の仕事の中で達成すべく四つのことにつきまして、一つは目標管理ということはいえるのかと思っております。

次に、先ほど申しましたように、今回、所信表明の中で申しましたような目標を、それぞれの課で、該当するところで掲げていただいて、目標管理をしていきたいと。それで、今回、ちょうど職員の業務改善研

修という提案がございまして、その中でも職員の方から積極的に所属目標を設定し、成果とやりがいの向上を目指すといった、こういった積極的な提案がなされております。こういったことも積極的に取り入れまして、この提案いただいた職員の皆様とも協議をしながら、どうすれば適切に目標管理が行えて、目標に従って仕事が行えるのかということにつきましては、今後、具体的に検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

そうすることによって、やはり役場としてのチーム力を高めていただいて、政策の実現に向け、取り組んでいただきたいと思います。

それと、やはりリーダーシップとしては、やっぱりトップダウンでする場面も出てくると思いますね。あるいはチームとして、しっかりと議論をして進めていく方法、そういうこともあると思うんですけども、やはり厳しい環境の中で、最後は決断、責任、それはついて回ると思います。そのためにも、ぜひ人材育成のほう、力を入れていただいて、住民の期待に応えていただけるように、よろしく願いをしておきます。

次に、子育て支援について進めてまいりたいと思います。所信表明では、子育て支援の充実と拡充について、女性が働きやすい環境をつくっていく観点からも、私は重要であると思っております。

今後、どのような取り組みをされているのか、町長の考えをお伺いをいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの竹谷議員の質問について、お答えさせていただきます。

議員がおっしゃるように子育て支援の充実、拡充というのは非常に大切なものでございます。現在、豊能町では、子育て支援スキップを中心として、子どもの支援、親支援、地域支援を行っております。一つは保育所において、延長保育、早朝の7時から夜の7時、幼稚園では夕方5時までの預かり、次に、ファミリーサポート事業というものがございます。実は、このファミリーサポート事業、こちらの事業につきましては、子育ての援助を受けたい方と、子育ての援助を行いたい方が、それぞれ会員登録して育児の総合援助活動をしております。この制度を活用すれば、土曜日、日曜日、祝日や早朝、夜間においても、子育ての援助を行うことは可能になりますので、まずは、この制度、今ある、この既存の制度の周知を子育ての依頼者、援助者の登録の充実を図ってまいりたいと思っております。

さらには保育所、幼稚園の園児の保護者の方から意見の聴取も行いながら、どのような子育て支援を求めているのかを把握し、財政状況をも勘案しながら子育て支援の充実と拡充を図ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

去る10月13日だったですかね、国際通貨基金、IMFというのが東京で開催をされましたね。その中でラガルド専務理事、女性の方ですけどもね。この方が日本の経済の低迷について述べられている一言があるんですけどね。やはり日本は、女性の社会進出が非常に低いと、欧米に比べて非常

に低いと、今後、日本は女性の社会進出を積極的に、やはり取り組んでいくべきだと、それが日本経済の活性化の大きな柱になってくるんじゃないかというようなことを述べられております。女性の社会進出の中でも、いわゆる企業の管理職になる方は、本当に少ない。フルタイムで働く方も非常に少ないと、そこが、これからの日本経済の大きな対策の一つであるというふうに述べられております。

ちなみに韓国も低いらしいですね。韓国は、ここ数年、企業、政府挙げて女性の社会進出、雇用等も含めて非常に努力をされて、かなり上がってきていると、日本はいまだに、こういう低迷をしているというようなことを述べられております。非常に女性の社会進出に期待をするということを言われておりました。

まさに私は、そういうことは大事かなと思いました。たかが豊能町が、どうのこうのということじゃないですけども、せっかく、こういうことで子育て支援、挙げられてますので、豊能町から、そういうことが発信できるような施策を取り入れていっていただきたいと思います。

ちなみに横浜市が、子育て支援を進める上で、子育て世代がどういうニーズを持っておられるのか。あるいは、どういう考えなのかというアンケートをとられたらしいです。アンケートをとった結果は、意外や意外や、若い子育て中の方の社会進出、就職に対しては3時間から5時間ぐらいを希望する人が80%ぐらいあったらしいです。そこで横浜市は、どういうことをしたかという、そういう画一的な保育所も必要ですけども、先ほどおっしゃったような保育サポートというんですかね、やっぱり柔軟な保育制度を確立していくべきだろうということで、そこを積極的に広めようと思

れております。

多分、豊能町も、そういう考えの人も結構おられるんじゃないかなと、朝から夜までというんじゃないしに、そういった政策も今後、私は大いに進めていっていただきたいと思います。

今、町長のほうから、そういった保育サポートを周知もしていきたいということですけれども、そういった拡充も含めて取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思います。そういったことで豊能町から、こういう政策が発信できるように取り組んでいっていただきたいと思いますけれども、町長の御意見をお伺いいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの竹谷議員の御質問に対して、お答えいたします。

まさに豊能町から発信するということは、非常に大事なことだと思っております。これから、今後、新しい施策につきましては、私もできるだけプレス発表をして、記者会見も受けるような形で発信していきたいと思っております。

ただいま申されました子育て支援、こちらにつきましても、今後は、いろいろなニーズをつかみながら新たな施策ができるのであれば、していきたいと思っております。ただ、今現在、子育て、豊能のファミリーサポートセンター事業は、先ほど申しました子育ての援助を受けたい方と、子育ての援助を行いたい方、それぞれが会員登録して、相互で援助活動を行うと、非常に、これは住民協働のよい事業だと思っておりますので、こちらをやはり、よりこれからは町内の方にも、どんどん宣伝をしていって、こういうことは、どんどん効果が出れば豊

能町でも、こういった効果が出てますよと、こういった事業は有効ですよといったようなことにつきましては、今後、効果も見ながらPRはしていけたらと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

積極的に進めていっていただきたいと思えます。豊能町の場合は立地的に、やはり雇用の場が限れているのと、やはり、それを求めるとかなりの時間を要して、通勤時間が必要であるというのが大きなネックの一つありますけどもね。

そんな中で、やはり柔軟な保育施策というのは、これから重要になってくると思えます。やはり、これからは子育てと仕事が両立する環境をとっていく必要がありますね。日本の労働人口が、だんだんと少なくなっていくという、やっぱりそのためにも女性の皆さんに頑張ってもらいたいという施策を、ぜひ、豊能町から発信できるようにしていただきたいと思えます。そうすることによって、町外から豊能町を目指して転居を考えられると、あるいは豊能町に住んでみたいということにつながってくると思えますので、ぜひ、そういうことを積極的に取り組んでいっていただくことを要望しておきます。

それでは、次にダイオキシンについて質問をさせていただきます。所信表明の中でダイオキシン類汚染物の早期完全解決に向けての取り組みということがうたわれておりますけども、田中町長が考えてる早期解決への取り組みの基本的な方針をお伺いをいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

まず、本質疑の回答につきましては、豊能町長として答弁すべき事柄でないこととございまして、豊能郡環境施設組合の議会で答弁させていただいた範囲内でお答えさせていただきますと思います。

まず、今後、私の所信表明の中ではダイオキシン類汚染物につきましては、豊能郡環境施設組合において国や大阪府と連携して安全、確実に、また、早期に安全処理が行えるように努力してまいりますと書かせていただいておりますが、今後、こちらにつきましても、施設組合の管理者として無害化の処理を行うべく鋭意努力し、取り組んでまいりたいと考えております。また、当然、管理者、副管理者、能勢町長が副管理者でございますので、両管理者そろいまして相談の上、このことについては進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

このダイオキシン問題というのは、私が議員になった以前からあったというのが事実で、平成9年に発生をしています。当初は、汚染土壌が9,000トン、後にそれが1万1,000トン、そして、高濃度汚染物、いわゆるドラム缶というのが約4,200本、気の遠くなるような量があったわけですね。

今日まで関係者の皆さんの御努力で、現在、ドラム缶が144本と施設解体で新たに出たものを含めて、約190本ぐらいですかね、残っているのが事実ですね。

しかし、残念ながら、この4年間でも処理は進まなかったと、現在も残っているままになっているということが事実ですね。ぜひ、この辺の経緯等についても、田中町長、よく経緯を勉強していただいて、今後

の解決への参考にさせていただきたいと思
いますけれども、この辺について、田中町長、
どう感じられておるか、考えがあるのか、
その辺をお聞かせ願えれば幸いかと思いま
す。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの竹谷議員の御質問にお答えい
たします。

まず、経緯につきましては、議員、御指
摘のように、これから勉強してまいりたい
と思っております。申しわけございません
が、何分、着任して間がないこともござい
まして、まだ、完全には把握できてない部
分もございます。ですので、現在、具体的
な見通しというのは立っていない状況でござ
いますけれども、今回の副管理者である能
勢町長とも一緒に話をしていきながら、先
ほどの経緯についてもしっかり把握して、
今後、解決に向けて進めてまいりたいと思
っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

歴史は、元のところからきっちり振り返
って進めていくのが大事かと思えます。な
ぜこういうものが発生したかということも
一つやと思えますね。

なぜ、ここまで長引いたかということも
一つですね。やっぱり、そういったことを
きちんと検証して、それなら、こういう方
法でいこうかとかも出てくるかもしれませ
ないので、きっちりとその辺は勉強してい
だきたいなと思えます。

それと、これは非常に難しい問題である
というのはね、当然、認識していただい

ると思うんですけれども、これまで、いろ
んな方が努力をされてきました。結果とし
て進まなかったですけれども、大変な努力を、
議会としても努力をしてきました。それは
豊能町だけじゃなしに、能勢町の方も一緒
ですわね。住民の方も努力されてきました。
ここまで進みました。しかし、こんだけ残
っていると、非常に難しい問題で、今、田
中町長、言われたように、まず、副管理者
である能勢の町長ですか、あそこを含めて、
やっぱり議会、豊能郡環境施設組合のほう
できっちりと協議をしていただいて、一定
の方向を出していただきたいとは思ってい
ます。

いずれにしても大変難しい問題なので、
早々にはできないと思えますけれどもね、じ
っくりとやってほしいと思うんですけれど
も、その辺について、町長の感想をお聞か
せください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの竹谷議員の質問について、お
答えいたします。

まさに議員、おっしゃっていただきました
ように、これまで長い間、問題でござい
ます。多くの住民の方、また、これにかか
わりまして、当然、町長、議員の方、両町
長ですか、それぞれかかわってきて、これ
まで非常に積年の問題であるということは
認識しております。ですので、これまでや
られてこられた方の教訓といいますか、そ
ういったこともしっかりと見詰めながら、
何とか、今は現体制で頑張っ

てまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

一時的には豊能郡環境施設組合でしっかりと議論していただくということになると思います。さらに、先ほど来、繰り返しておりますけれども、まず、副管理者であります町長と、しっかりと、その辺は連携をしながら、協議をしながら、協調しながら進めていただきたい。

さらに豊能郡環境施設組合と、組合議会ともしっかりと議論をして進めていただきたいと思います。この問題につきましては、これ以上の質問は、私は適切でないと思いますので、これぐらいで終わらせていただきますけれども、ぜひ、明るい光が見えてくるように努力していただきますことを重ねて要望をしておきます。

それでは、次に入ります。次は、生活福祉部長に御質問をいたします。

在宅高齢者外出支援事業について、伺います。この事業は本年6月1日から従来の運行委託先が変更になりまして、新しく委託先で運営をされておりますと、その後、約6カ月がたっていると思います。この変更後の会員数、あるいは利用状況について、まず、お聞きをしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

上林生活福祉部長。

○生活福祉部長（上林 勲君）

お答えをいたします。

在宅高齢者等外出支援事業、おでかけくんの利用状況でございますが、平成24年10月末の時点でございまして、会員数が266人と、前年同月の10月末ですね、23年10月末が242人ということでございまして、24人の増加でございます。利用回数につきましては、24年10月末で1,939回、前年の10月末で1,080回ということで、259回の増という状況

でございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

ということは、会員数も利用回数も、ともに今のところはふえているということですか。

私だけかもしれませんがね。あの黄色い車が、あまり見かけないので、ちょっと心配をしておったんですけどね。高齢者の閉じこもり、あるいは障害者の閉じこもりをなくして、自立した生活を送っていただくということで、これは豊能町独自の事業としてスタートして、それなりの成果を上げているんですけどもね。そういうことでふえているのであれば、私は、それ以上は、思うんですけどね。今、課題というのか、そういうなのは、何かあるようでしたら、ちょっと。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

上林生活福祉部長。

○生活福祉部長（上林 勲君）

お答えをいたします。

課題、今、考えられる課題でございますが、今後、高齢化の進む本町におきましてはですね、おでかけくんの利用者も増加していくものと考えられますので、将来的には利用者の推移を見なければいけません、現状、2台で運行しておりますが、増車等も考えていかなければならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

そういうことも考える必要があるという現状では、私はうれしいなと思うんですけど

どね。これからますます高齢化が進んで、超高齢化の時代を迎え、特に豊能町はね、私は思うんですけども、先ほどの子育て支援と含めて、やはりこういう高齢者の方がね、この豊能町で、いつまでも安心して生活、そのために自立して生活できるということが、私は一番大事やと思うんですね。

聞きましたらね、いやもうマンション、買ってあるから、いつ引っ越ししようかなと、タイミングを待っているんやて、そんな話もね、わずかですけども聞いたり、あるいは利便性のあるところへね、越していこうということも、どこかないかなという話も聞きますので、ぜひ、そういうことのないように、私は豊能町は日本で長寿ナンバーワンの町でもいいと思うんですね。長寿ナンバーワンの町、子育て支援ナンバーワンの町でもいいと思うんですね。それぐらいの意気込みで、やはり、こういった台数をふやすということも念頭に考えなあかんのではないかとおっしゃってましたけども、ぜひ、そういったことを積極的に進めていっていただきたいなと思います。

その辺について、さらに担当部長の御意見を伺います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

上林生活福祉部長。

○生活福祉部長（上林 勲君）

お答えいたします。

本町の高齢化率は、本当に急激に伸びておりまして、9月末現在ですね、30.53%と、本当に高齢化率が高い状況でございます。今後におきましてもですね、高齢化率が、どんどんふえていく状況でございますので、高齢者対策も十分考えて施策を進めていかなければいけないと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

竹谷勝議員。

○8番（竹谷 勝君）

ぜひ、しっかり取り組んでいただきたい。今、高齢化率が30.53%ですか、約3人に1人ぐらいですね。地域的にはね、もっと高いところもあるんです。恐らく町長のおられるところら辺は、もっと高いと思います。また、いろんなところもね、低いところもありますけども、やはりこれはもう、早急に取り組んでいかないと、どんどん人口が衰退してしまう傾向があります。特に豊能町は坂が多い、段差が多い、階段が多い、公共施設は遠い、郵便局は遠い、金融機関は遠い、買い物は遠いということで、非常に苦勞されてますので、ぜひ、その辺は住民目線で取り組んでいただきたいと思いますように、特にお願いをしておきます。

これについては、答弁は結構です。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（福岡邦彬君）

以上で、豊政クラブの一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

再開は、午前10時25分といたします。

（午前10時12分 休憩）

（午前10時25分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、豊民クラブの一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて120分とします。

井川佳子議員を指名いたします。

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

2番、井川佳子です。一般質問をさせていただきます。

理事者側の皆さんにおかれましては、初めての経験ということもあるかもしれませんが、親切丁寧にわかりやすくお答えいただきますよう、よろしく願いいたします。

では、まず1番目のエスカレーター問題についてお伺いいたします。

選挙等々でいろいろ議論があったところでもあります。まず、エスカレーターについての町長の基本的なお考えをお聞かせいただきたく思います。

2万4,000人の人口の町にぜひ品と考えるか、または必要不可欠な交通手段と考えるか、こういう取り組み方のお気持ちから、まず、お伺いいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、お答え申し上げます。

議員の御指摘のとおり光風台駅を利用される住民の皆様にとって必要なものと考えております。2万4,000人の人口のうち光風台、新光風台には、豊能町の人口の4割以上の方も住んでおられますということから、必要なものと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

必要不可欠なものと考えていらっしゃるということをお聞きしまして、とても心強く思いました。

では、社会資本整備総合交付金という名前のが、ちょうど適用しているということが判明しまして、こういう国の補助金があるということも町長は、もう御存じだとは思いますが、つけかえに当たりまして、

こういう国の補助金を活用される準備等を進めていらっしゃるのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の御質問に対して、お答え申し上げます。

更新する場合は、国の補助金を最大限活用するということは当然でございますけれども、現状では、おっしゃっておられるように社会資本整備総合交付金を充てることとなるんですけれども、こちらにつきましては種々の制約をクリアしながら府の社会資本整備計画にのせていく必要があると考えられ、さらに国の補助金が見込めたとしても、国の検査があるため慎重に活用を検討を行う必要があると考えられます。

また、社会資本整備総合交付金は、5年ごとの計画でして、25年で一旦、切れるという形になります。また、今後、政権も、今はどう変わるかわからないということは、この補助金もどうなるかということもわからないという現状もございますので、そういったことも勘案しながら、今後、検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

田中町長の所信表明にも国の交付金を、また、法定耐用年数を経過しました光風台駅前のエスカレーターについては、国の交付金も活用しながら更新してまいりますと、お答えいただいております。それと、所信表明演説の中に、平成22年に公表した財政再建計画の中で多くの住民の移動手段である光風台駅前のエスカレーターの廃止

や循環バスの休止を公表されましたと、これは住民にとって必要なサービスを削減し、町の魅力をなくすものですよという捉え方で、今、取り組んでいらっしゃると思うんですね。

このままいくと、負のスパイラルに陥ると書いていらっしゃるんですけど、実は前町長が進められてきた施策というのは、25項目の財政再建の中で、まずはエスカレーターの、将来にわたっての廃止ということを決められてはいたんですけども、その後、光風台駅前エスカレーター代替案検討会議というのを立ち上げられました。学識経験者2名、光風台自治会の方、新光風台自治会の方、それぞれ3名、それから、豊能町役場の方3名と、事務局、豊能町役場から1人という構成で、検討会議を設置されております。この会議は平成23年6月から平成24年2月、9カ月間、延べ8回の会議を開催されています。

その中で、最初は財政再建25項目に挙げられて、広報にも掲載されました。エスカレーターは平成26年度末までに廃止すると公表されたのですが、その話し合いの中で、いろんな検討がなされまして、エスカレーターの更新に対して、国の交付金制度を適用できることが判明したということ。それから、新光風台自治会が実施されたアンケートによって、これは回収率58.9%で、そのうち84%の人が存続を望むものであったということ。それで、それからの話し合いの中で、住民も一定の受益者負担を受け入れる意向があるということが話し合われまして、町は住民負担を前提にエスカレーターを更新する方針に転換し、検討会議で提案したという報告書、会議のまとめという、この検討会議から平成24年2月26日に提出されたことがあります。

ですから、一般には、その広報にもうたわれた平成26年度末に廃止するということが出回っておりまして、その後の、こういう検討会議があって、その中で方向転換なされてきているということが、あまり周知されていなかったような気がするんですね。

そして、今回の選挙、選挙というのは前の町長選挙の話でございます。そういう何かエスカレーターを廃止する人、それから、更新する人のイメージで、何か進んでいたような気がするんです。でも、そこにちょっと違いがあると思うんですね。廃止ありきではなく、そういう検討会議の中で判明してきたこと、それにのっとりまして、実は廃止だけを考えていたわけではないということなんですね。住民負担については、その会議では年1,050万円というふうに考えられていたんですが、それについては、アンケートをとりたいたいというふうに住民の方がおっしゃいまして、そして、そういう住民の方の負担についてもアンケートを実施することになっていたんですが、まだ、経過がありまして、町がメンテナンス会社に稼働可能年数を再確認したら、エスカレーターは大規模災害などで一時的に同部品が大量に必要な場合を除き、平成31年度末まで稼働させられることが可能と判明し、町は、その方針で、では31年度末ぐらいまで稼働できるのであれば、そうしようというふうに方向転換されているわけなんですね。

これを受けまして、この検討会議では今、そういう住民の方の費用負担のアンケートをとってもですね、まだまだ、いけるのであれば、今とる必要はないということで集結されているわけなんです。

ですから、一般に思われているイメージと、実は少し違っているんです。これを受

けまして、町長は、これからどうされるのかということなんです。実は、町長の任期は4年でありまして、27年までと、でも、このエスカレーターは部品がある限り、平成31年度まで持つというふうになっています。このまま補助金もあるか、ないかわからないので、先ほどの答弁でしたね。待ってても、そのままエスカレーターは町長の任期中は動いてるんじゃないだろうかと思っていられるのかなと、ちょっとそこに疑問があります。お答え願います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問について、お答えさせていただきます。

ただ一つ、報告書の中の話があったんですけども、一般の住民にとりまして、私も含めてなんです、町の見解といたしましては、2012年の広報とよののころには、部品の供給とフルメンテナンスが不可能となった場合には、安全性が確保できないことから、平成31年度末までの運転は不可能となりますので、その時点でエスカレーターは廃止することになりますといったことがございますので、こういった認識で、まず、いっておりましたことが1点と、それと、先ほどおっしゃってございましたように、31年という話になりますと、確かに私の任期中は動いているという話でございますけれども、先ほど申しましたように、部品がなくなれば即時停止するといったこともございます。

それと、やはり国の財政も大変厳しゅうございますので、やはり国の補助金があるうちに、何とか進めてまいりたいという考えでございます。ただ、これからどういった

国の補助金が、今のものが適用されるのか、新たなものができるのか、そういったことにつきましては、今後、しっかり見ていって、適用できるものがあれば、適用させていただいて実施してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

はい、ありがとうございます。

そうなんです。部品がないと、いつとまるかわからないエスカレーターです。ですから、私は、そこに挙げさせていただいてますように、今、取りかからなければ問題を先延ばしにしている状態というふうに、私は今の状態を認識しているんですね。そういう認識でいらっしゃるんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、お答えいたします。

問題を先送りしているというつもりはございませんでして、今現在、できる範囲のことはやってまいりたいと、ですので、こういった補助金を使えるのかとか、わかる範囲のことは進めてまいって、次に補助金が活用できるとなれば、それに乗って早急に行ってまいりたいと思っております。

それと、済みません。先ほど私の発言の中で、豊能町の人口2万4,000人と発言しましたが、済みません。現在の人口は約2万2,300人ですので、ここで修正させていただきます。済みません。申しわけございませんでした。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

国の補助金が整い次第、早急に更新をしていくというイメージで、私はとったので、それでよろしいですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

そうですね、要は国の補助金にも条件がありますので、そういったものを見ながら適合していけば、やっていきたいと、当然、適合しなければ、できないケースもあるうかと思しますので、それは頑張ってまいりたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

もちろん補助金を利用することは、とても大事なんですけど、補助金任せでは、やっぱり心もとないですね。町長は選挙戦の中でも更新しますとおっしゃっているんですから、任期中にしっかりと取り組んでいただくという姿勢で理解してよろしいですね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

井川議員の御質問に対して、お答えします。

当然、任期中に取り組んでまいります。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

では、町長の御任期中に更新するべく、国の交付金等もネットを広げて取りながら進めていただくということで、認識いたしました。ありがとうございます。

では、その検討会議の中でも、先ほどちょっとあったんですが、その検討会議の中では、設置は町が、その交付金を使ってしまうと、でも、その維持費については、住民負担でということが話し合われていました。話し合われている現状でありまして、実際の結論というのは、もちろん、まだ、出てないわけなんですけれども、町長の、その取り組む姿勢をお答えいただきたいんですけど、その維持費ですね。新光風台、光風台住民の方が負担するようなお話でされてたんですけど、その光風台駅前エスカレーターは特定地域の利益と考えていたところに問題があると思うんです。一番最初に必要不可欠な交通手段だとお答えいただいていた。

そのエスカレーター、もう人口が2万4,000人じゃなくて、2万2,000人だというふうに訂正もいただきまして、もう2,000人も減ってきているんですね。そのエスカレーターですね、町の魅力と捉えて維持費も町負担するのが、私は当然だと考えるんですけども、町長の御見解をお聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の御質問に対して、お答え申し上げます

確かに維持費は大きな話でございます。ですので、今後、維持費については、抑えるような努力をしてまいりたいと思います。基本的には町のほうで維持費はもってまいりたいとは思いますが、一緒に下げていくような努力でありますとか、いろんな提案というのは、住民の方からもいただきながら、例えば、寄附はいただけるのであれば、それぞれ寄附をいただくとか、そ

ういったことは、それぞれ努力してまいりたいと思っております。ですので、まずは、その維持費を下げるような努力を、まず、考えていって、できる限り町のほうでやっ
てまいりたいと思います。

また、その際に例えばエスカレーターに
広告をつければ、少しは広告料が入るのか
とか、そういったことも、いろいろ御提案
いただきながら、また、御寄附いただけ
る方がいらっしゃるんであれば御寄附いた
だくであるとか、そういったことも求めな
がら今後、考えてまいりたいと思ってお
ります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

箕面市でもね、北大阪急行の延長を考
えていらっしゃるというのは、もう御存じ
のとおりだと思うんですけど、そこでも多
くの方から寄附を募って勧めようとされ
ております。やはり、そういうやり方も
町長、今、おっしゃったようにですね、
有効であると思えますし、また、今、初
めてですね、広告料なども考えていらっ
しゃるという新しい意見も聞いて、とて
も頼もしく思っているところでござい
まして、どうか皆さんの御期待に沿っ
て進めていっていただきたいと思いま
す。

では、この質問については終わらせて
いただきます。

では、2番目のバス問題について移ら
せていただきます。

お年寄りに優しい交通網の整備とい
うことですね。この人口減少の負のスパ
イラルを断ち切るためにというふうに、
交通網の整備をお考えですが、実はお
年寄りも、もちろんそうなんですけど、
現役世代、今、通勤、通学に、この交
通手段を使っている

世代の皆さんにも応援を考えていただ
きたいと思うんです。それは、一つは、
今、言ったエスカレーターであり、また、
バスであると、私は考えております。

現在の北大阪ネオポリス線の一部、特
に通勤、通学時間帯を箕面グリーンロ
ード経由の便にするという要望はです
ね、交通特別委員会で話し合わせ、町
行政と、それから交通特別委員会の委
員長、副委員長を交えまして、平成2
4年2月3日に阪急バスに対して、要
望を挙げております。

お答えはですね、今のところ難しい
な感じの答えなんですけど、このまま
ではいつまでたっても平行線だと思
うんですね。

では、町として、もうちょっと踏み
込んだ、実現してもらえるようにです
ね、朝2便、夕方2便、もう極端に
言えば朝2便だけでもいいと思
うんですけど、町より費用をつぎ込
んで運行する方針はあるの
かないのか、お聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、
回答を申し上げます。

御存じのように、通勤、通学の利便
性を高めるために、特に通勤、通学
時間帯の北大阪ネオポリス線の箕
面グリーンロード経由便については、
本年2月に阪急バスに要望を
実施してきたところでございま
す。その回答は、議員、御存じか
とは思いますが、阪急バスからは
北大阪ネオポリス線については、
豊能町域だけでなく、茨木市域、
箕面市域の輸送も行って
おり、箕面グリーンロードへの
経路変更を行いますと、茨木市
域、箕面市域での運行便数の
減少となり、既存旅客への影
響が大きいと考えて
おります。

また、仮に茨木市域、箕面市域での運行便数を維持しながら箕面グリーンロードへの経路変更となりますと、新たな車両、乗務員が必要となることから、実現は困難であると考えていますというのが、阪急バスの回答でございます。

これから申し上げますと、現行の北大阪ネオポリス線を、より充実させるための運行を実現するには車両の購入費用とか、乗務員費用を町が負担して行うこととなります。現在の北大阪ネオポリス線の運行形態の変更を伴うことから、その部分のみに負担をして実現することは、現状では、残念ながら困難と考えます。阪急バスに対しては、そのような運行をしていただきたいという要望については、引き続き今後も継続してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

阪急バスさんは、このままでは動いてはくれないだろうという気がします。やっぱり町として、もうちょっと踏み込んだことが要ると思うんですね。それで、東ときわ台から箕面森町の路線ですね。これもいろんな理由を阪急バスさんが述べられまして、そして、何かいかにも絶対つかないような、そういう雰囲気でした。でも、やはり西地域全体のバスの路線を考え直し、西地域のバスでは町が1,000万円の費用を充てて、それが実現されております。

やはり町として、もう一步踏み込んだことを考えていただきたいと思うんですが、いかがですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

お答えさせていただきます。

北大阪のネオポリス線につきましては、平成9年にダイヤが改正をされて以降、今現在も全く変わっておらないという状況でございます。

また、昨年の12月から池田線の東能勢線ですね、東能勢線の見直しが行われまして、希望ヶ丘、今まで牧を走っていた分の約半分が希望ヶ丘から走っているという状況でして、池田線の途中で千里中央へ行くバスに乗れるという機会がふえたということで、希望ヶ丘については一定利便性が向上されたのではないかとこのように思っているところでございます。

先ほど西地区に1,000万円のお金を出しているやないかということでございますが、これにつきましては阪急バスのほうから東ときわ台線、新光風台線については大幅な赤字があるということで、今のバスの便を半減したいという申し出がありまして、町は箕面森町のほうへの実現をさせてほしいという要望もありまして、町が1,000万円を出すことによって、そういう路線が組み入れられたということで、今までの経過は、そういうふうになっておりまして、北大阪、希望ヶ丘の住環境のあれについては、町としては一定改善をされているだろうというふうに思っているところでございます。

阪急バスのほうから北大阪ネオポリス線の赤字が、年間約3,000万円いっているということでございまして、これについては茨木、あるいは箕面の方が多く乗られるから、一定は、まだ、ましになっているけれども、一応、毎年3,000万円の赤字になっているというふうに聞いているところでございまして、これを新たに増便をするということになりますと、相当の金額を町に求められるのではないかとこのように思

っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

また、交通特別委員会のほうでも一緒に考えていくんですが、町長も真摯に受けとめて考えていただきたく思います。

それと、もう1点、バス問題についてですが、公立高校の学区が旧一学区、旧二学区が合併して随分たちます。通学至便な町にするために余野、希望ヶ丘、茨木行きの直通バスを朝一便でも運行していただけるお考えはありますか。やはり小中学の教育というのは、豊能町は素晴らしいものがあると思います。もう本当に、どこと比較しても、この公立の、また、保育所でありますとか、こども園でありますとか、幼稚園でありますとか、こういう環境はですね、もう本当に素晴らしいものである。これを積極的にPRしてくいことは大事です。その後、もう義務教育ではないので、勝手にしてくださいではなく、やはりこういう教育環境を維持していくためにも、やはり高校の進学というのは、もうほとんど皆さんの方がされるわけで、その支援をしていただきたいと私は思っているんですけど、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、お答え申し上げます。

阪急バスでは、豊能町を含めたバス路線の再編がなされており、先行して西地区の再編がなされたところですがけれども、豊能町と茨木線を結ぶ路線についても再編が検討されているものの、茨木市との調整が必

要であるため実現されていないところです。また、豊能町と茨木市を結ぶ路線は、年間で1億8,000万円を超える赤字となっております。サービスの向上を図るための増便は困難と考えますが、今後の路線再編に合わせて既存の路線や便を活用した直行便の運行について地域公共交通会議での検討や阪急バスへの要請は行ってまいります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

阪急バスさんの都合もあるやろうからということ希望ヶ丘でおっしゃったんですが、そういうふうじゃなくて、やはりこちらの姿勢としてですね、今、お聞きしたような地域公共交通と、それから交通特別委員会を交えて町長も、もっと積極的に取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

では、次のダイオキシン問題について、移らせていただきます。今、198本のドラム缶が高山に保管されています。この契約期間ですね、平成25年12月27日までというふうになっておるんですね。

要するに、この契約期間が後1年ということになっております。この後、どうされるのか。先ほど聞いたらですね、新能勢町長と考えていくというお答えですが、それはそうです。でも、豊能町長とされまして、やっぱり町民の皆さんにも親切に説明していただきたいと思うんですね。その議会を見に来いというだけではなく、やはりここにお集まりの傍聴の皆さんでありますとか、もっと広く豊能町に住んでいらっしゃる方にもですね、豊能郡環境施設組合で考えていますから、ここでは答えられませんというようなお答えではなくて、町長として、どのように進めていくお気持ちであるかと

いうところを、私は、きょうはお聞きしたいと思うんですね。

まず、先ほど聞きました、あと保管期間が約1年と、そういうこと自体をどう受けとめて、どうされようとしているのか、お聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、お答えさせていただきます。

豊能町長としてという話でございますけれども、一つは、これ豊能郡環境施設組合の議会の中で、やはり決めていくべきものでございまして、なかなか、先ほど申しましたように、能勢町長、副管理者とともに当然、検討していくべきものだと思っております。

それと、そういうことですので、今後、この処理につきましては環境施設組合の管理者として処理の方法について、さまざまな方法を今後、副管理者とともに検討する必要があると認識しております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

町長は選挙期間中、このダイオキシンは国崎クリーンセンターで処理をすべきとおっしゃって訴えていらっしゃいました。今も、その方針には変わりはないんですかね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

井川議員の質問に対して、お答えさせていただきます。

実は、私の配付物とかを見ていただいた

らわかるかと思うんですけども、一切、国崎クリーンセンターで処理をすべきということは、そういったもので公言しているということはありません。それが1点です。

それと、国崎クリーンセンターでの処理なんかも含めまして、さまざまな処理の方法について今後、検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

失礼いたしました。私が間違えたということですね。はい。認識させていただきます。申しわけありません。

では、さまざまな方法があると考えていらっしゃるという、そのさまざまな方法というのは、どういう方法なのか、お答えいただきたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

さまざまな方法でございますけれども、一つは外部処理ということで、ほかのところで処理していただくということが1点、もう一つは、先ほども申しましたが、国崎クリーンセンター、こちらで処理をしていただくということが1点、それとここの当地で、豊能町の当地で処理をするということが1点、処理という話でいえば、そういったことになるかと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

さまざまな方法の選択として三つあるというお答えでした。では、契約期間があと

約1年に、切れる間に、それらが全部進められている、進められているとはちょっと考えにくいと思うんですね。では、この保管先をどうされていくおつもりなんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問について、お答えします。

これも、先ほどの話と繰り返しになるんですけども、施設組合の会議の中で、また、決めていくこととなりますので、今の現状では、どこで、もし保管期間が切れたときに、どちらに保管するかというのは、今後、その中で検討していくこととなりますので、現時点では明言できるものではないと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

環境施設組合に今、府の職員の方が不在です。やはり、こういう大きな問題を考えるときには、もちろん豊能町と能勢町と、それから、そういう町の自治体だけではなく、やはり府や国のお考えもちゃんと指導にもものっとなつてですね、進めていないといけないと思うんです。そういう迅速な解決のために、府の力をかりるべきと考えているんですが、今、どういう形でかりられているんでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、お答えさせていただきます。

4月より大阪府から派遣していただいて管理官は府に復帰されたんですけども、今現在、これまでと同様に技術支援を受けられるように必要なときに施設組合に出張して業務に当たっていただくと、こういったことによって支援を受ける形になっております。

現在においても、府の力をおかりしている形になっていると考えております。以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

今のお答えでは、環境施設組合には府の職員は不在ですが、必要なときに来ていただいているというのは環境施設組合に来ていただいているのか、あるいは、環境施設組合が府に相談に行っているのか、どちらなんですかね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

両方あるんですけども、環境施設組合に、基本的には来ていただいていると、また、相談事等あれば、場合によっては、また、府のほうに伺うこともありますけれども、基本的に環境施設組合のほうに府の職員の方が技術支援ということで、出張ということで来ていただいただくことになっております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

早急に進めていただきたいけど、なかなか早急に解決できない、本当に大変大きな問題であります。やはり情報の開示というのも必要だと思います。今、198

本のドラム缶が高山に眠っているという事実さえ御存じのない方も、かなりあります。中央公民館の隣にあると思っていられっしゃる方もいらっしゃいましたし、やはりそういうことも開示して、みんなで取り組んでいこうという姿勢、今、目の前にないから、もう解決されたんじゃないかというようなイメージを振りまかないように、ぜひ、町長としての説明も、皆さんにしていきながら進めていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

では、次の質問に移らせていただきます。事業の見直しについてなんですけれども、町長は所信表明の中で、全事業について新たな事業評価制度を導入してまいりますとされていますが、どのように進めていられっしゃるのか、お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの井川議員の質問に対して、お答え申し上げます。

全事業の事業評価については、平成26年度から本格的に実施していく予定でございます。現在は、予算事業と実施計画事業の整合性を図ることを目的に予算の事業再編に取り組んでいるところであり、平成25年度の当初予算より事業評価の導入を見据えた事業名称への変更をしているところでございます。

今後は、平成25年度中に職員の研修を行いながら一部事業について政策評価の試行を行い、平成26年度当初から全事業の評価を行う予定でございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

そうですね、すぐに実施はできないというようなイメージで捉えたんですけれども、平成26年から実施したいというふうにお考えのようですね。やはり事業というのは、町単費で起こしているものは結構少ないと思うんですね。やはり国から、府からというような事業がほとんどです。その中で、どの事業が一定要らないかということを考えていくのは、非常に難しいものがあると思うんですね。

そういうような御認識に立って、お進めなんですね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

井川議員の質問に対して、お答えいたします。

確かに議員おっしゃっておられるように、補助金等を受けてる事業とかあります。それにつきましては、ただ、そういいましても、当然、財政難、超高齢化社会、ストックの老朽化などの諸課題、こういったことにも対応していかなければいけないということもございますので、要は、こういった限られた経営資源を最大限有効に活用するような、そういうふうな視点でも行ったら、そういうどうしても切れない事業について、そういった視点でより、その事業が、どうすればより有効に効果するのかといった視点で事業の評価をしていくという考え方が必要かと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

井川佳子議員。

○2番（井川佳子君）

事業の効果をよく考えて進めていただけるということなので、よろしくお願ひいたします。

では、私の質問は、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（福岡邦彬君）

次に、橋本謙司議員を指名いたします。
橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

1番、豊民クラブの橋本です。

通告書に沿って、質問させていただきま
すので、町長におかれましては、的確でわ
かりやすい答弁をよろしく願いいたしま
す。

若干、ちょっと順序は変わりますけども、
二つ目の職員の意識改革についてから質問
をさせていただきます。

町長就任後、はや1カ月以上が経過しま
した。その中で町長に就任される前後で、
職員に対するイメージというのが、前後で、
どのように変わったのかということ、ま
ずお聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの橋本議員の質問に対して、お
答えさせていただきます。

町長に就任して、直接、職員の皆様と今、
仕事を進めておりますが、皆様、真面目に
仕事に取り組んでおられます。先日も業務
改善研修の発表というのがございまして、
そちらでも若手中堅の職員で構成される3
グループから積極的な業務改善の提案の報
告を受けましたけれども、いずれも、よい
提案であり、指導されている講師の先生も、
他都市と比べてもトップレベルの提案であ
るということではめておられました。

そういったこともありまして、一つは、
外で見ているより中で見るとは、少し違っ
ているということが1点でございます。それ
と、ただ、やはり挨拶とかという面につ

いては、まだまだ、なかなか庁舎に來られ
た方、住民に対しての対応の挨拶という面
では、少し不足しているようには思いまし
たので、そういったことに関しましては、
当初の御挨拶の中でもお願いしたところ
でございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

質問、ちょっと順番、変えて申しわけご
ざいませでした。

先ほど町長もちょっと、もう次の質問も
お答えいただいたんですが、やっぱり私
が見ている限りでも、やっぱりまだ、本町
だけではございませんけども、まだまだ納
税者をお客さんというふうに感じてないん
ではないかなというふうに見受けられるあ
たりが多々あると思います。そんな中
です、やっぱり民間企業並みにはいかな
いかもわかりませんが、いらっしゃいま
せもそうですし、おはようございますとい
うふうなこともですね、やはりしっかりや
っていくべきじゃないかなと思いますし、
やっぱりトップがかかった、これを機に、
そういうふうなこともですね、ぜひとも積
極的にやっていくべきだというように考
えましても、そのあたりは、どのようにお
考えですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員の質問に対して、お答え申し上
げます。

やはり接客の基本は、まずは挨拶だと考
えておりますので、先ほども申しました
ように登庁のときに早速、庁舎に來られた
住民の方に対しては挨拶をお願いするとい

ふうなことは、お願いしたところでございます。

それとあとは、さらに進んだ話で、先ほども業務提案の中であったんでございますけれども、他課との連携の強化では、たらい回しの撲滅と、こういったことについても、先ほどの職員の

○議長（福岡邦彬君）

町長に申し上げます。質問に対して答弁してください。

○町長（田中龍一君）

ですので、接客については、先ほども挨拶が大事だということで、挨拶についてお願いしますということでお願いしているところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

やっぱり当然、挨拶というのは大事だと思いますし、そこはみずから、やっぱり町長もですね、先ほど、職員とのコミュニケーションを図っていくという話もおっしゃってましたけども、そういうふうな挨拶もですね、やはり登庁される際も町長みずから積極的にしていくというようなことで、やはり皆さんに、そういう意識を持ってもらうということが大事じゃないかなというふうに思います。

町長は、もう就任されて約2カ月が、もうすぐたちますけども、そのあたりで、先ほど、町長、冒頭の初登庁をされて、最初に職員の皆さんにですね、そういうふうなとも、挨拶も含めてしっかりやってほしいということで述べたというふうにおっしゃってましたけども、そのあたり、私が見る限りは、まだ、かわりがないんじゃないかなというふうに思ってますけども、そのあたりが、町長がどう感じられて、それを次、

どうしようというふうに考えておられるのか、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員の質問に対して、お答えいたします。

一つは、先ほど申しましたように朝礼などで随時、申しています。それと。当然ながら、私自身も職員の皆さんに対してどんどん挨拶を率先してやっていくということが一つ、それともう一つは、先ほどにも話をしましたように、業務に取り組むべき基本的な四つの視点ということで、サービスの向上でありますとか住民の皆様へのサービスの向上、あとは経費の削減とか、収入の増加でありますとか、効率的な職場の実現でありますとか、そういったことにつきましては、今、職員の皆様に表現について、より親しみやすいものを考えていただいているところございまして、そういったものを張り出すということによりまして、日々、それを見ながらサービスの向上につながっていくのではないかとというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

やっぱりこれね、私も今、新聞紙上でも騒がれてますけども、関西電力の社員です。そんな中で、実は関電自体も、やはり公共性の強い企業で、やっぱり、そんな中で、お客さんのことをやっぱりお客さんと思ってなかった時代も、確かに昔はありました。やっぱりそういうようなことが今は大分改善されて、やはりお客さんことは、しっかりお客さんと思うというのは当然、時代の流

れの中で変わってきましたし、先ほど、無理やというようなことも一部ありましたけども、僕は無理やと思ってません。やっぱりそこはしっかりとみずからがですね、口酸っぱく言っていく、みずから見せていくというふうなことを、やっぱり繰り返しながら、やっぱりお客さん、納税者の方をお客さんだと思うということから、やっぱり始めていただきたい。それがないと、多分、幾らいいことを言っても実現できないと思いますし、やはりそういうふうなことで、町に愛着を持つということもそうですし、やっぱりお客さんだと思って、日々、接していただくと。それで、なおかつ、住民の皆さんが役場に来たい、来てよかったと思って帰っていただくというふうなことを、まず、始めていただきたいなと思います。

これはしょうもないこともしれませんが、やはりそういうふうなところから変えないと、きっと町長が思っていることは進まないんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひともよろしくお願いします。

そうしましたら、次の質問に移らせていただきます。次に、所信表明についてですね、御質問をさせていただきます。

町長はですね、まちづくりプロジェクトチームの立ち上げということで、プロジェクトチーム自体を兼務でというふうにお考えのようですけども、やはり町のにぎわいだとか、活性化を大きく前に進めるためには、私自身は、やはり専属組織ということを設置して、前向きに精力的にやっていくという必要があるのではないかとというふうにお考えですけども、そのあたりは、町長はどうお考えですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員の質問に対して、お答えさせていただきます。

まず、議員がおっしゃるように、プロジェクトチーム、町のにぎわいとか、活性化を大きく進めるためには、新たな事業が必要になってくるかと思っておるんですけども、そのときには往々にして新しいことは、ほかの課にまたがってしまうと、いわば業務がまたがるということは往々にしてよくあることだと思います。ですので、立ち上げ期につきましては、それぞれ関連する部署の方が出てきていただいて、仕事を兼務してきながら、プロジェクトチームを立ち上げてやっていただくというのが適切ではないかと思っております。

ただ、それが一旦、事業化をされれば、当然、議員、御指摘のように専属のところでやっていただくというものがふさわしければ専属のところでやっていただくというようなことをすべきではないかと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

今、町長がおっしゃったように、確かに部分横断的なことがあって、それをクリアするためには、やっぱり各組織から出ていただいてということも、確かに、そういう場面もあるかもわかりません。ただ、やっぱり今、こういうような状況、また、各行政の動きなどを見ていると、やはりいろいろ、そういうふうな専属チームを立ち上げてやっておられるところも多々あります。やっぱり、そこは組織のあり方で、例えば町長直轄の組織にするとかいうふうなことも踏まえて、やはりその権限も持たし、予算も持たしてやっていくというふうなことから始めないと、多分なかなか兼務で、日々

の業務に追われながらやっていくと、どうしても後回しになっていくんじゃないかなと、そうしていくと、多分、日ばかりたつて、なかなか前に進まへんということもあるかと思いますが、このあたりは、まだ、すぐには言いませんけども、ぜひとも、もうちょっと、その進捗を見ながら、進みぐあいを見ながら、しっかりと前向きに、ぜひとも進めていただきたいなというふうに思います。

ただ、1点、このプロジェクトチームなんですけども、組織を横断してやるということは、当然、大事やと思うんですけども、その中で、どのようなことをテーマに掲げてやろうというふうにお考えなのか、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員の質問に対して、お答えさせていただきます。

今、考えておりますのが、先ほど来、話をしております、その業務改善研修というところで、成果が発表されました。その中で、三つ提案があったんですけども、一つは所属目標を設定し、成果とやりがいの向上を目指す、もう一つは他課との連携の強化、たらい回しの撲滅、もう一つは事務引き継ぎをスムーズにし、仕事のクオリティを高めるといったものを御提案いただいておりますので、これも、いずれも複数の課にまたがるものでございますから、まずは、こういったことが、今、御提案いただいているということもございまして、こういったことからプロジェクトチーム、まさに、この御提案いただいた方を中心にやっていたくようなことが必要かなと、今現在、私としては思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

今、町長おっしゃったようにですね、三つの、そういう課題が出てきて、それについて、いろいろ発表会をされた。確かに、そういう所属の目標、たらい回しをしない。事務の引き継ぎのあり方等々、確かに大事やとは思いますが。ただ、それはどちらかという、内向きな話ではないかなと思うんですね。確かにたらい回しというのはお客さんにとっての話ですから、早急にやるべきだと思いますし、重要なことだというふうに思います。

ただ、私が言っているのは、一步、もう一步踏み込んで、確かに、こういうようなことを、先ほど申された三つのテーマを優先に取り組むというのは、よくわかりますけども、やはり、その後、やっぱりまちをにぎわす、活性化する、例えば、ほかのところでは、そういう特産をあえてつくったりとか、例えば、ゆるキャラを設けたりとか、いろいろしていますよね。そういうのは、やはり他市町村、他行政でもやっているようなことをやる。当然、それ以上のことをやるということは大事やと思うんですね。そういうのは、今、申された内向きなことではなくて、やっぱり外に打って出るということをや早々にやるべきではないかなというふうに考えますけども、そのあたりは、どのようにお考えでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの橋本議員の質問に対して、お答え申し上げます。

今、早々にやるべきことということで、

現在、進めていますことが、やはり町内のUターン施策ということ、今、考えております。といいますのは、来年、再来年と消費税が8%、10%と上がると、住宅メーカーの方の話の聞くと、非常に今、住宅、ミニバブルといいますか、買いたい人は、たくさん買ってきているので忙しいと、です。豊能町についても、この波を何とかこちらに入れたいということで、今、考えていることがございまして、そういったことについて今、豊能町の、先ほど来、井川議員からもおっしゃっていただいたようにメリット、豊能町のメリットについて、大々的にまとめて発表、公表していくと、公表するに当たりまして、広報とよの、こちらで、例えば1月号でありますとか、8月号でありますとか、ここの住民の方のお子様方が、こちらに帰ってこられるようなタイミングを見計らって、そういったことを効果的に実施してけないかなと、そこでできれば親御さんからも豊能町、こういうことをやっているよというようなことを一声掛けていただければありがたいなと考えております。ですので、まずは今、豊能町のメリットを一番届けたい、お子様方に届けるような形で広告を打っていくというようなことを、今現在、検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

ありがとうございます。

今、町長の思いはお聞きしてわかります。ただ、やっぱりそういうふうなことで、今おっしゃっているのは、多分、今現状の豊能町のよさ、政策、施策をわかってもらって帰ってきてもらうということやと思うんですね。それに町長の方針でもあったよう

な、そういう空き家の話とかあるかもわかりませんが、ただ、やっぱり町外の方からも見て、豊能町って、こういう町だ、こういう特徴があるというようなことも含めてですね、やっぱり出していくべき違うかなと、そのために、やっぱりそういうような組織を設けるべきだというふうに僕は考えますので、また、そのあたり、すぐにはいきませんが、やっぱり職員の人材をしっかりと見きわめていただいて、早い段階で、そういうような組織強化を、ぜひともしていただきたいなということで要望をしておきます。

次に、本庁支所へのフロアマネジャーの設置ということで、所信表明にもうたわれています。その中でフロアマネジャーの設置もさることながら、やっぱり接客の基本、先ほども申し上げましたけども、当然、挨拶だけではなくて、例えば、お客さんをお待たせしないとか、待っている人がいはったら声をかけるとかというようなところの、接客の基本というのが、まだまだできていないように感じてますけれども、町長は、どのように感じておられますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員のただいまの質問について、お答えいたします。

接客の基本が、まだまだというお話がございまして、これ、先ほど来、申ししておりますように、まずは、基本は御挨拶からということで、それを何とか励行していきたいということがございます。それと豊能町も元来、民間企業へ人を派遣、要はホテルなんか接客業のところにも、これまで人を派遣してきております。その方々が中心になって、先ほどの業務改善という研修を、

また、取りまとめられて発表されているということもございますので、まさに、先ほど申しましたようなたらい回し、こういうことを撲滅しようというような提案もまいましたので、そういった民間の研修を受けて豊能町に帰ってきたときに、こういうことがだめだなど、こう改善しなければいけないというような当然、いろんな視点の業務の発表とかもありましたので、そういったことに関しては、どんどん取り入れさせていただいて、それを全庁的に取り入れることによって、接客のレベルが上がっていくのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

今、私、申し上げた、ちょっと議長から質問、かぶってませんかという話があったんですが、私の言う、その接客の基本というのはですね、挨拶もさることながら、例えば、電話の出方もそうですし、例えば、相手が電話を切るまで、普通は、電話を切らないというのが普通なんですけども、やっぱり町に電話すると、先のがちゃっと切ってしまうとか、そういうのが多々あります。例えば、名刺の出し方もそう、やっぱりそういうようなことも含めて、そういうのはマナーの基本だと思いますし、そういうのは、もう一般に市販されている著書なんかでもあります。そういうようなことを用いてでもですね、やはり庁内で、そういう教育、研修をですね、わざわざ先生を呼んで来なくてもできると思いますので、ぜひともやっていくべき違うかなというふうに感じています。

そういうふうなことを繰り返しやっていたきながら、やっぱりそういう気遣い、心遣い含めて、お客さんにもそうですし、

町の中の組織の中でもやっぱり、そういうようなことを繰り返しやっていると、組織も強くなるし、お客さんにも信頼が得られんんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひとも、そういうふうなことをやっていただきたいと思いますけども、どのようにお考えですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員のたゞいまの質問に対して、お答えします。

おっしゃるように、講師の方を呼んでの研修だけではなくて、確かに市販の本とかで出ているものとかがありますので、そのあたりはまた、まとめるなり、何らかの形で皆さんにお伝えするなりということについては、早急に検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

はい、ありがとうございます。まさしく、こういうようなことを申し上げると、何を言うてんねやなというふうに思われるかもわかりませんが、やっぱりそういうふうなこともね、多分、一つの基本だと思いますし、普通、民間企業では、そういうようなことは新入社員で入ったら、そういうふうなことを研修を受けて、そういうふうなことを学ぶということをしていますので、やはり、そういうふうなことも繰り返しやっていくべきだと思いますので、ぜひとも、そういう意識づけも含めてですね、やっていただきたいと思いますし、やはり、そういうふうな普通、多分これは本町だけではなくて、どこの市役所、地方役場へ行って

もそういうことはできないと思いますけども、そういうふうなことができる役場だということも含めてですね、やっていただきたいなと思いますので、よろしく願います。

次に、所信表明の中の住民と行政の双方コミュニケーションの促進というふうなことでうたわれています。この中で、やはり住民の意見を積極的に取り入れる、聞くということは、当然、非常に重要なことというふうには思いますけども、町長自体、こういうふうな双方向コミュニケーションを、どのような手法で考えておられるのか、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの橋本議員の質問に対して、お答えいたします。

議員、御指摘のとおり双方向のコミュニケーションで住民の皆様の御意見を積極的にとれることは非常に重要なことと認識しております。まずは多くの皆様の御指示をいただいて当選させていただきましたので、公約の実現を進めることが、まずは重要と思っております。

ただ、公約の具体的に実現に当たりましては、住民の皆様の御意見も取り入れられるところは取り入れながら実施してまいりたいと考えております。

また、その住民の皆様の御意見を取り入れる手法ですけれども、それぞれの事業や特性等によって内容が異なりますので、それぞれに応じた方法で御意見を賜うような双方向のコミュニケーションの促進については検討してまいりたいと思っております。

それと就任して間がなくて、まだ、具体的なことは、これから考えていくところな

んですけれども、ただ、この2カ月間で実際、私がやったこととしましては、一つは、先ほど申しましたUターン施策の実施に当たっては、町内の不動産事業者、集まっていたいて、いろいろ御意見をいただいて、今現在、反映しようとしていることもございます。また、公務の差し支えない範囲で各種団体の会合にも積極的に参加させていただいているところでございまして、先日も独居老人の方への食事サービスをしている会にも参加させていただいて、いろいろお話を伺ったりはしてきました。

また、11月のとよのまつり、こちらにもできるだけ長い時間、参加させていただきまして、多くの店とか、展示会場に出向いて、いろいろ皆様のお話を聞かせていただいたところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

今、町長がおっしゃっていただいたように、各種団体とのミーティングといいますか、話し合いですね、等々含めて、フェイス・トゥ・フェイス、顔を合わせてお話を聞くということは非常に大事なことだと思います。

まず、前町長も、そういうふうなタウンミーティングをやられていました。非常に、そういうふうなことも大事だなというふうに思っています。その辺は継続して、ぜひとも続けていただきたいなというふうに思いますけども、もう一方では、やはりなかなか大多数の方とは、そういうふうな折衝なり、お会いして話をするというのは、なかなか難しいかと思っておりますので、一方では、そういうふうな住民満足度の調査とか、あるいは転入転出時の転入転出者へのアンケート調査とかいうふうなことを踏まえなが

ら、なぜ出ていくのか、なぜ入ってこられたのか、例えば、やっぱり住民の皆さんが、今、役場に対して、どういうことを思っておられるのかということも含めて、やっぱりアンケート調査なんかもとっていきべきできないかなというふうに思いますけども、そのあたりはどのようにお考えですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

先ほどの橋本議員からの質問に対して、お答えいたします。

おっしゃるように、転入転出、こういったことの内容、アンケートをとるとするのは非常に大事な事として認識しております。この10月から今、庁舎、支所において転入者、転出者においてはアンケートの調査を実施しているところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

早速そういうふうなことをやっていただけているということで、初めて知りましたが、ありがとうございます。

やはり、そういうふうなことで、より多くの方から、そういうふうな御意見、お声を聞けるように、ぜひとも何らかの工夫を今後とも進めていただきたいなというふうに思いますので、よろしく願います。

次に、これも所信表明の中に入ってますけども、遊休地の見直しということで、当然、そういうふうな売却等々も含めてですね、お考えだと思いますけども、こと戸知山についてですね、今後、どのような活用を考えておられるのか、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの橋本議員の質問に対して、お答え申し上げます。

戸知山の活用についてなんですけれども、将来的には、できれば企業誘致ができれば、企業とか、あそこで事業をやっていただける方がいればありがたいと思っております。ただ、なかなかすぐには困難と考えるので、今現在、栗園とか炭焼き窯、椎茸園とか桜園とか、こういったことについて進めているということですので、こういった利用について当面は考えていきたいと思っております。

また、当面の維持管理経費については、計上していく考えですけれども、NPO法人等による管理方法も今後、検討していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

確かにですね、豊能町、結構山奥にありながら、例えば味覚狩りできるところがほとんどないとか、例えばバーベキューで行くところがほとんどないようなところがあって、なかなか私自身、こういうような豊能町の山奥の議員をやっているということ、皆さん、御存じですので、都会の方から豊能町にええとこないかというふうなことを言われるんですが、実際に、そのようところがあまりないというふうなことで、先ほどの栗、椎茸等々おっしゃってましたけれども、やっぱりそういうふうなこともですね、一つのアイテムではあるのかなというふうな感じはします。

そんな中で、もう一歩ですね、やっぱりこの自然の環境、これだけ広いところがある。そういうふうなことを含めてですね、

以前、議会でも質問しましたがけれども、そういうふうなスポーツの合宿地としてね、そういうふうな、例えばグラウンドを設けて簡易宿舎を建てるか、建てへんかは別にして、例えばいろいろな建物、今、余っています。そういうふうなところを利用しながら、そういうスポーツ合宿地として活用できないかということを経前に提案をしたことがありますけれども、そのあたりについて、検討の余地があるのかないのか含めて、お答えをいただければありがたいです。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの橋本議員の質問に対して、お答えいたします。

スポーツ合宿地ということでございますけれども、先ほどの企業誘致という中で、もし、そういった提案があって、法律的にできるのであれば、そういったことも考えられるのではないと思っております。また、一つは、暫定的な話でいいますと、なかなか先ほど申されたように、宿泊施設をつくるでありますとかということ、なかなか経費がかさむという面もありますので、そういった面ではちょっと難しいのかなど。ただ、例えば、キャンプを張ったりとかということは考えられないこともないんですけれども、一つは御存じのように、あそこはイノシシとか、シカとか、場合によってはマムシとか出てくるということもあるので、そういったことも考えると、ちょっとどのように、なかなか難しいのではないかと、また、橋本議員のいろいろ御意見も賜りながら考えてまいりたいと思っておりますので、よろしく願います。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

なかなか、この土地、山も譲渡といますか、いただいてから、なかなかうまく使えてないと、ただ、いろんな制限があるということもお聞きしてはありますが、やはり、そのあたりも含めて、先ほど町長、企業誘致ということもおっしゃってましたけれども、いろいろな観点で、ぜひとも早い段階で有効利用が、しっかりとできるように、ぜひともお願いをしたいなということで要望しておきます。

次に、職員のやる気の喚起ということで、町長が評価制度、提案制度を考えているということで所信表明にも述べられてはありますが、そのあたり、どのようなことをお考えなのか、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員の質問について、お答えいたします。

先ほど来から回答していることとも重なるのでございますけれども、目標を定めて、先ほど所信表明で掲げている内容をもとに、それぞれの部、課、担当者で目標を設定して、それを提出してもらって、目標の進捗管理を行うと、こういったことも一つ、評価制度の中に組み入れたらどうかと思っております。

また、先ほど申しましたように、住民サービスの徹底とか、経費の削減、歳入増加、働きやすい効率的な職場の実現、こういったことを実現できるのか、何が足りないのかといったことも目標として掲げていただいて、評価できればいいかと思っております。

提案制度についてでございますけれども、

これも当然、今現在の提案制度はあるんですが、できるだけ提案していただいたもので効果が見込めて、費用はかからないようものであれば、積極的に採用して行って、職員のやる気につなげていきたいと思っております。

今後は所信表明に書いたことの実現に関して、積極的に提案していただければありがたいと思っております。また、先ほども申しましたけれども、11月の業務改善研修の提案ということも、先ほど三つ提案いただいたというのもございますので、こういったことについても実現に向けて積極的に考えていきたいと思っておりますので、提案していただいたことが、それがまた、実現される。そうすることによって、また、職員の皆さんも、また、提案していただくと、どんどんやる気が喚起されていくのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

今、おっしゃっていただいた評価制度は、何となくわかります。提案制度なんですけどね、先ほど町長が費用がかからないものについてはということでおっしゃいましたけれども、別にこれは、僕は費用がかかっても費用対効果が合えばね、ぜひともやるべきやと思いますし、やはりその辺はね、今、こんな財政が厳しいから金かかるやつはあかんということではなくて、やっぱり初期投資、金がかかっても、後々、回収がしっかりできるのであれば、やはりやっていくべきだというふうに思いますので、これは別に褒賞でほめたたえるとか、そういうことだけではなくて、やっぱり職員がアイデアを出し、知恵を出した者に対して、しっかりと、それが実現できる。言うたことを

やってくれるねんというふうなことの、やっぱりスパイラルが必要じゃないかなと思いますし、言うても、言うだけで、何も変わらへんというようなことのないようにですね、町長には取り組んでいただきたいなと思いますし、ぜひとも職員の知恵、アイデアということを活用しながら、この町のためにやっていただきたいなというふうに思いますので、その提案制度についてですね、ぜひとも、先ほど申し上げたように費用のかかる、かからないもそうすけども、やはりよりいいもの、この町のためになるものであればですね、どんどん採用、実現というようなことでやっていただきますようお願いを申し上げます。

次に、最後にですね、情報発信についてということで質問させていただきます。

今まで私も情報発信について、いろいろな提案をさせていただきました。でも、なかなかちょっと難しいなということで進んではおりませんけれども、町長自体、本町に興味を持っていただける積極的な情報発信というのは、どのようなことをお考えか、まず、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員のたゞいまの質問に対して、お答え申し上げます。

情報発信ということですが、今、取り組んでいることを、まず、お話しさせていただきます。これにつきましては、先ほど申しましたように、まず、情報発信というのは、情報を誰に伝達するのかというのが明確に必要になってくると思います。それで、まずは当面できることといたしましては、これまで豊能町に住んでおられたお子様方が再び、こちらに帰ってきていた

だけのように今現在、豊能町は、こんなことをやっていて、もうこういうすばらしい町ですよということをわかるようなことを、まず、情報発信したいということで、先ほど申しましたように、1月であるとか、8月であるとか、お子様方が、こちらに帰ってこられることのタイミングのときに広報とよの中でUターン政策、要は、この町の特徴ということについて、まずはお伝えしたいと、その中で、また、ふるさと納税とか、ああいったことに関しても入れていってやっていきたいと思っております。

それと町外に、積極的にここをアピールするということについてなんですけれども、こちらについても、一つは、これから新規施策を打つに当たって、ただ単にプレス紙をほうり込むだけではなくて、その都度、記者会見を受けて、そこで積極的にアピールをしていけたらと思っております。それと、先ほど申されたようなインターネット等、ブログとか、そういったことですか、そういったことについては、今後、他の都市で、どんなやり方をしている、どの程度、効果があってどうなのかというふうなことも検証しながら、ちょっと考えてきたいと思っております。

まだ、ちょっとこちらについては、すぐということにはならないかと思っておりますけれども。

○議長（福岡邦彬君）

質問に答えてください。

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

今ね、おっしゃったように、記者会見の出し方、プレスの出し方等々については、確かにぜひとも、そういうようなことでお願いしたいなと思います。

次に、例えば、町長挨拶だとか、町の見どころというのを、できたら、そういうよ

うな動画放映とかいうのも一つの手じゃないかなというふうに思いますし、他市町村でも、よくやっておられるブログとかツイッターとか、フェイスブックというようなことを、いろんなツールを使いながらの情報発信というのも、今後もやっぱり考えていく、もう時代に来ているんじゃないかなというふうに思いますけども、そのあたりについては、どのようにお考えでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

橋本議員の質問に対して、お答えします。

そういったブログ、ツイッターとか、動画配信ですか、そういうことにつきましては、まだ、費用の面もありますし、あと他市町村でどういったことをやられているのか、それをやっぱりしっかり見て、そこでの費用はどれだけかかって、どれぐらい効果が出ているのか、そういったことも聞きながら考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

橋本謙司議員。

○1番（橋本謙司君）

ぜひともですね、他市町村の動向も踏まえながら、やっぱりよくほかの市町村のホームページを見たりとか、ぜひともしていただきながら、今どういうことをやっておられるのかということも参考にしてですね、見やすいホームページもそうですし、いろいろな情報発信を、ぜひともしていただきたいなというふうに思っています。

なかなか町長、就任されて、約2カ月がたちますけれども、田中町長自身ですね、多くの指示を受けて町長になられた。ただ、一朝一夕には、事は進まないと思いますけれども、どうか豊能町、豊能町民のために

ですね、頑張ってくださいことを期待して、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（福岡邦彬君）

関連質問はございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（福岡邦彬君）

以上で豊民クラブの一般質問を終わります。

この際、暫時休憩といたします。

再開は、午後1時といたします。

（午前11時48分 休憩）

（午後 1時00分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、町政会の一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて40分とします。

永並啓議員を指名いたします。

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

こんにちは。7番、永並啓です。町政会を代表し、一般質問をさせていただきます。時間が限られていますので、すぐに質問に入りたいと思います。

新町長には大変期待しておりますので、よろしく願いいたします。

まず、町政全般についてですが、さきの臨時議会におきまして、町長の所信表明により、町長の大まかな方針はわかりましたので、それらの方針をいつまでに、どのように実現させていくのか、具体的な施策についてお聞きします。

所信表明を聞かせていただきましたが、どちらかというと、職員の意識改革であったり、住民との連携などが占めており、将来の豊能町を、どのようにするのかということについては、まだ、あまり述べられていないように感じました。簡単にいうと、

豊能町という船の動かす人は集めているけれども、その船の目的地というのが、まだ、定まっていないのかと。だから、将来の豊能町、目をつぶって、こんな町になるなということを一先懸命膨らまそうとするんですけど、さすがに今の段階ではイメージできないのが現実であります。

私は日本の民主主義というものが成長しないのは、選挙で候補者が具体的な施策までを述べないからと考えております。日本の選挙、先進国でありながら、いまだにスローガ的な公約というものが目立ちます。誰もが住みやすい福祉の充実、教育に力を入れる。当たり前のことですし、反対する人はいないと思います。重要なのは、どのような施策をもって、それらを実現していくのか、この点が非常に重要だと考えております。それらを示すから、選挙によって示すから有権者は、将来の自分たちの町の姿を頭にイメージすることができて、じゃあこんな町にしたいと言っている候補者を選ぼうというふうを選ぶのかなというふうを考えています。

今後、日本全体において今、選挙が行われていますけれども、地方分権というものは進んでいくと思います。今までは、どこの自治体でも同じような行政サービスをしているだけで、国から言われたとおりしていればよかったわけですが、これから地方分権が進み、地方に権限、財源が与えられていきますと、各自治体において、特徴のある行政サービスというものを展開していく必要があります。また、日本全体の人口が減少していくこれからは、特徴を生かしたまちづくりをし、人口をふやしていかなければ他市町村との競争に負けて、豊能町はゴーストタウンになっていってしまいます。町長、言われている赤ちゃんからお年寄りまで、すばらしいことだと思いま

す。

ただ、そういった全方位的な戦略というものは、イギリスの揺りかごから墓場までと同様、大都市、体力のある大都市でしか無理なのかなと考えております。豊能町のような小さな町、ニッチ市場、すき間産業的に、中小企業のように、すき間産業的に生き残るしかないのかなと、少ない限られた財源をどこかの分野に選択して集中して投資をし、その分野では他市町村の、どこにも負けない、そういったことをして他市町村から人口をどんどん入れていく、そういった考え、展開が必要だと思います。

そういったことから、地方分権が進む今後におきましては、これまで以上に町長のリーダーシップというものが重要になってくると思います。ただ、午前中の答弁を聞いていると、何となく下からの提案を待っているように聞こえます。下から声を聞いて、職員が働きやすい環境というものをつくることもリーダーシップの重要な役割ですが、それは組織や人材が成熟している場合におけるリーダーシップであります。衰退しそうな豊能町のような町、そして、人口が減少していく、そういったところを改革する場合のリーダーシップというものは町長自身が、まずは、どんどんアイデアを、方向性を出して引っ張っていくということが必要だと考えます。

町長自身が、どんどん独創的、他市町村がやっていない、まねのできない施策というものを早い段階で示していくことが重要だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの永並議員の質問に対して、お答えいたします。

まず、所信表明に示させていただいた、まずは、こういったことについて進めてまいりたいと思っております。具体的なことにつきましては、先ほど、まず、対処いたしましたのは、この人口を、こちらにふやすということでUターン施策、これについて、まず、今回の広報とよのの中でやっていきたいと思っております。最新の話といたしましては現在、不動産業者さんともお話をさせていただいて、今現在、私が、豊能町から転出された方が、こちらに入ってきたときに、一番何を、こちらに帰ってくる時一番、何を探るかということ、不動産の最新情報、これを探ることがございまして、例えば新聞の毎週の折り込み、ああいったものしか見れないと、ああいったものが最新の情報になっているというのがございましたので、まずは、不動産業者、町の不動産業者さんで、要は合意いただいた方につきましては、そこで一つのサイトをつくっていただいて、そこを見れば最新の不動産の情報がわかるというようなものを、今回、つくっていきます。

それによりまして、来年、再来年と消費税が上がる、それに対しての新たな家を買いたいという需要について取り組むということ、早速、取り組ませていただいているところでございます。

それと、先ほど職員の方からの、下からの提案をという話があったんですけれども、これも非常に大事な話だと思いますし、一つは目標の管理ということがあったので、これは私の、この所信表明に対して、この目的を達成するためには、所信表明の目標を達成するという意味では非常に重要なことだと思っておりますので、こういったことを今やっております。

ですので、今、独自のお話といえば、そういうふうに着手したところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

済みません。時間もあるんで簡潔にお願いしたいと思います。

私はね、そのもの、一つ一つのことではないのではなくて、やはり町長ですから、豊能町全体のランドデザインですね、そういったものを検討していく必要があるのかなと思ってます。私は行政サービスというものは、円のようにつながっているというふうに考えています。だから、交通網についても、例えば、高齢者だけの交通網にしていくか、企業誘致した際の住民の交通手段としても考えていくのか、それとも小学校の統廃合をした場合のスクールバスとの連携はしないのか、スクールバスの使わない時間、昼間の時間帯があきますから、そういったものを使って、もっと効率よく動かすことができないのか、では、ああいっただ学校校舎の使い道はどうするのか、そこに本庁移転はできないのか、そこに保育所をつなげることによって、子育てしながら働きやすい環境というものを豊能町からやっていくことはできないのか、そういったランドデザインですね、そういったものが、まだ、イメージできないんですね。やはり、それをすぐには言いません。でも早い段階で豊能町全体、まず、朝、起きて、いろんな地域に、いろんな世代の人が住んでいます。それが動き出して、どのような日常を送るのか、毎日、それを考えてイメージできるような、住民がイメージできるようなことを発信していくことが重要だと思っています。

それと、もう1点、下からの吸い上げはもちろん重要なんです。重要なんですけれども、そのためには、まずは町長は、こん

なことどうや、こんなことどうやというものを、どんどん出して、下からも、俺こんなに出しておるから、もっと出してこいよぐらいのことが必要なんじゃないかなと、そういったリーダーシップが求められていると思いますので、ぜひとも、そういったところも考えてやっていただきたいと思います。

そういった具体策というものを早い段階でお願いできないかなと。やはり4年後に、まとめて結果を見てくださいというのではなくて、つくりましたら1年目には、こんなことができました。2年目には、こういうことを実現しますというようなタイムスケジュールをつくり、毎年、途中経過などを評価し、計画よりおくれていけば、こういうふうに修正して進めていくんだと、そういったものを出す必要があると思いますが、この点に関していかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えさせていただきます。

一つは、こちらからリーダーシップという話ですけれども、こちらにつきましては毎朝、全国の自治体の最新情報を見せていただいて、その中で、うちで検討すべきもの、採用すべきものということがあれば、毎日、印字をして担当の者に渡すことはしております。

それと、これからのランドデザインとかという話でございますけれども、当然、そういったことも考えてはまいりますけれども、まずは、こちら表明させていただいた所信表明、こちらを中心にやってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

質問したところ、具体策をつくって1年目にどうする、2年目にどうするというようなタイムスケジュール的なものも必要じゃないかというところを聞いてますので、そこについてお聞かせください。

それと、先ほど言っていました、いろんな情報の最新情報を見てというのは、それは基本的に、どこかの自治体のまねなんです。じゃなくて、豊能町をどんどんPRするというなら、やってないような新しい独創的なものをどかんと見せないと、新聞も取り上げてくれないし、一番なら取り上げてくれるんですよ。そういったものを新しい感覚でどんどん発信してもらいたいと思って言ってますので、これはお願いしたいと思います。

ですから、タイムスケジュールの件だけ、まずはお答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

タイムスケジュールについてですが、先ほどの、午前の答弁にもありましたように、全事業の見直しというものを26年から着手するという事でタイムスケジュールは考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

また、生駒市長なんかがね、1期目から公約の達成状況を細かく出しているんですよ。ほかのところには、そういった改革とされている人は、いろんなことをやっています。民間の感覚で4年間まとめて4年後の選挙で、こうですよというのではなく

て、出したこと、毎年、こういうふうになっています。今は、こういう状況ですということ、どんどん出すということをしていくところがあります。そういったところを、やはり見せていかないと、何やっているのかなというふうにわからないというような状況になりますから、そういったことをお願いしている。また、考えていただきたいと思います。

続きましてですけれども、退職金について質問させていただきます。

10月の臨時議会において、町長が20%のカットをされたことは大変評価しております。ただ、その削減は退職金には及ばないとされました。もし、20%の削減を退職金にも反映するというのであれば、いずれ退職金のことも考えてくれるのかなと思って質問することはなかったんですが、わざわざ退職金には反映させないということを言われましたので、それなら退職金を満額、受け取るという意思表示をされたと理解しましたので、質問することにした次第です。

なぜなら、首長の退職金というものは、世間一般の常識とあまりにもかけ離れているために、全国的に問題になっています。財政難の豊能町であるにもかかわらず、たった4年間の任期を終えたら人口2万2,000人しかいない豊能町でも1,700万円という高額なものが支払われます。こうしたことから、現在、改革派を実行している有名な首長などは、真っ先に住民感覚とかけ離れた、この退職金の削減を行っています。

名古屋の河村市長、4,200万円の退職金をゼロにしています。河村市長いわく、会社に入って4年で退職金をくれと言ったら、何、言ってんねんと言われるっております。

ほかにも福岡の久留米市の市長2,600万円をゼロ、東京板橋区の区長2,200万円をゼロ、大阪高石市の市長2,000万円をゼロ、尼崎の市長は市長の退職金を職員の支給率に応じて86%カット、滋賀県の嘉田知事も5,000万円を辞退など、いろいろあります。

最も重要に感じないといけないのは大阪府の松井知事ですね、就任早々、退職金について報酬審議会、11月の就任だったと思いますが、12月14日付で報酬審議会をかけた結果を出しております。1カ月ぐらいですね、就任後、それで報酬審議会の結果を受け入れ、大体4,100万円の退職金を85%カットし、629万円にしています。それに乗じて大阪市の橋下市長も当初は半額にするということでしたけれども、市長が知事よりもらうことはおかしいということで、同じく84%、629万円にしています。

大阪府の知事が大阪府の予算で報酬審議会を開き、そこで出された答申というものは、同じ大阪府の自治体というものは、全て受け入れるべきではないかと、私は考えております。当然のことながら、豊能町というものは大阪府の中の一つの町でありますから、大阪府のトップの退職金が600万円で、大阪府の一つの小さな町の町長の退職金が1,700万円というものは、非常に違和感を感じる次第であります。

町長、そこら辺は、どうお考えかお聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

そうですね、違和感といいますか、まずは、私、この条例どおりでやっていきたい

と思っております。それにつきましては、誠心誠意、この豊能町政で頑張りたいと思っておりますので、そこで御理解いただけたらと思っております。

これも公約には20%の報酬のカットということは掲げておりますが、退職金のカットについては掲げずにまいりましたので、私は当然、頑張りたいと思っておりますので、条例どおりでいかせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

やっぱりちょっと残念ですね。何か、幾ら町長が熱弁、振るわれても、実際に削減されたり、財政難と言っているわけですから、削減されたり、そういう自治体の首長がいるわけですから、その人たちが、じゃあ頑張っていないのかということ、かなり頑張っていると思います。ですから、私は、そう説得力という意味では欠けるかなと、また、町長は今回の選挙において、どこの政党からも支持を受けずに住民の力で選挙を戦われたと思います。住民感覚というものを大切にする町長のお考えと、そこら辺が、4年の退職金が1,700万円という感覚が一致するのかなというふうに感じるわけですね。町長の肩には多くの方の期待が乗っています。本気で改革を進めるのであれば、やはりこういう住民感覚とか離れた部分というものは早急に修正すべきだと考えております。

また、前町長は半分にされてましたからトータルでの削減額というものは前町長のほうが、していたことになるんですね。やはり削減額が少ないということ、改革を進めていくんだ、豊能町、本気でやっていくんだというメッセージ性というものも、何か

弱まってくるのかなというふうを感じるんですね。

再度、お聞きしますけど、みずから削減する考えはありませんか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

今現在、報酬については2割カットということで公約どおりやっております。公約にも掲げておりませんし、私も誠心誠意、この豊能町政を頑張っていきたいと思しますので、現段階の条例どおりということでやってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

多分、非常に残念な答えでした。また考えたいと思います。

次に、教育問題に入らせていただきます。

9月にいじめの認知件数が都道府県で最大5.5倍の差があることがわかりました。1,000人当たりの認知件数が最も少ない佐賀県が0.7件、最も多い熊本県が32.9件となっております。大阪府は2.4件という数になっています。全国的に見ても、どちらかというと少ないほうになっています。

熊本県の3からすると16分の1しか、いじめの件数が起こっていないという現状になります。

それが、事実ということであれば、大阪はいじめっ子が少なくて、学校生活が満喫しやすく、熊本はいじめっ子がむちゃくちゃ多くて怖いとかやなというような感じになるんですけど、そんなことないですね。

実際は、調査する人の意識の違いによる

ものかなというふうに思うわけです。ということから、大阪府がこういった極端に少ない認知件数ということを考えると、豊能町のいじめの件数というものも、実際に出されたものよりも多いんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

先般、文部科学省から発表された全国の調査でございますけれども、それに対して、本町の調査結果は、小学校5件、中学校2件の7件という報告をしております。

これは1,000人当たり、先ほど議員がおっしゃいましたように、全国では10.4ということですが、本町で小中学生が1,400人おりますので、5件という割合になります。

これが、多いか少ないかというのは、その調査の仕方が、発生件数から認知件数に変わったことによってですね、その捉え方によって、格差が出てきているというふうに思っています。

本町では、昨年度来から、毎学期ごとに3回の調査をしておりますので、ほぼ、その調査結果というのは、私は正しいものと認識をしておるところでございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

やはり、自分たちでやってる分には、そういう意識は多分、出ないと思います。間違っているんじゃないとか、自分たちも正しく調査をしているわけですから、でもね、全国の都道府県が同じように調査をして、ほかよりも差があると、差が出てしまった、じゃあその結果を受けて、じゃあ余

りにも少ないから、じゃあどこが違うのかな、そういう意識で見たら、もっと違うんじゃないかなというふうに感じるんじゃないかなと、それを感じたら、そういった目線で、もう一度調べてみようかなというふうに思っていたきたいんですけども、そういったことについては、熊本県の調査方法というものをもっと、いろいろ勉強してですね、それを一度、豊能町でもしてみるということにはできないものか、お聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

調査の方法については、各自治体に任せられておるわけで、特別、様式が決まっているわけではありませんが、本町では文科省よりも先立って昨年、毎学期ごとに全校全てを調査をしておりますし、それに基づいて、各校長のヒアリングも実施しております。

私としては、ただ、学校間には、今回もゼロという学校もありましたし、逆に数件出てきたところもあって、その差はあるかとは思いますが、きちんと教育委員会と連携をして、調査に対応しておりますので、ほぼ正確な数字が出ているというふうに認識をしております。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

やはりですね、ゼロというところもあったという、僕はもう信じられないんですね。人が集団で生活をするとなると、仕事であれ、学校であれ、いじめというものは絶対起こってくると思います。ですからね、もっとそういう意識を変えて、もうそ

うところがあると言ったら、絶対もう一度再調査というのは僕は必要だと思います。見たくない数字かもしれませんが、やはり、その現実を受けとめるということは、非常に重要だと思います。

例えば、熊本県、件数多いですけど、それを受けとめているから6月をいじめ強化根絶月間にしているのかな、それで生徒向けのアンケートを集中的に行ったりするんですね。目をつぶりたくなるようなことかもしれませんが、隠さず現状を把握しようとするから、こういった対策も講じることが出来ます。

例えば、学力でもそうですよね。大阪府が一番下、都道府県で一番下やという結果が出たから、何か対策をとろうとするんじゃないですか。

いじめも件数が少なかったら、そのままほうっておこうというような雰囲気になっちゃうんですよ。でも、それをちゃんといろんな角度で見て、件数をこだけだとなったら、対策を講じようというふうになるじゃないですか。ですから、ちょっとでも違ったりすると、僕は再調査というものをしていてもいいんじゃないかなと思います。

お隣の川西市でも高校生、自殺してしまいましたよね。その間でも、鳥取県でも飛びおりて大けがをしたり、もう対岸の火事では済まないんですね。都会も関係ない、田舎も関係ない。子どもたちには、どこにでも起こる、豊能町でいつ起きても、可能性はあるということなんですよ。

ですからね、子どもたちが最悪の手段をとらないように、ぜひとも現状把握というものを、もうお願いしたいわけですけども、再度、お聞きします。できないですか、現状把握、再調査を。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

先ほど来から申し上げておりますように、本町では、学期ごとに調査をしておりますが、既に2学期の今、途中でありますが、この調査結果も出ております。2学期だけで10件という報告が出ております。

ですから、それは残念なことに、前回からふえておりますけれども、それをもとに既に解決している件数が8件、引き続き継続中が2件という、そういう数字もつかんでおりますですね。また一方では、保幼小中の連携によって、いじめ不登校対策会議というのを毎月実施しておりますので、きちんと対応しておりますので、これからも適正な対応は努めていきたいというふうに思っております。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

何度も言いますが、豊能町の調査が間違っているとばかりじゃないんです。でも、豊能町の感覚で見た結果よりも、もしかしたら、熊本県のような意識で見たら、10件で済まないかもしれないじゃないですか。そういった違う角度から見ることが、非常に大事ですよということをお願いしているんです。その感覚で違う角度から見れば20件かもしれない。そしたら、そういった対策をすることにより、子どもの命を救うことにつながるかもしれないじゃないですか。

だから、今、我々はちゃんとしてますじゃなくて、多分、どこの自治体もちゃんとしてますと言うと思いますよ。結果、不幸なことが起こって、どうも済みませんみたいな感じになっているんやと思います。

ですから、自分とこと、自分とこだけの

尺度で物事を調査するのではなくて、ほかのところの見方、特に多いところからの見方というものを考えるのが非常に重要だと思いますので、そこはぜひとも、また、答弁結構なんで、考えていただきたいと思います。

あと、いじめの対応についてですが、9月議会において、今の現状の学校内の相談窓口だけじゃなくて地域の住民、ネット、生徒、生徒間同士、複数の場ですね、いじめられている子が、ああしんどい、何か相談したいって思ったときに相談できる窓口をつくっていただきたいというようなことを質問しましたが、それはどういうふうになってますか。

ちなみに和歌山県ではですね、知事のほうにメールやファクスで直接相談できるようにしています。いろんな取り組みを、いろんな都道府県してます。

豊能町でも何かそういった取り組みをされてはどうかと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

本町では、まず、学校も窓口になっておりますが、それ以外に東西両公民館内部で相談室を設けております。そこでは、学習相談、それから、生活上の相談の窓口ということで、そこで保護者、それから児童・生徒も自由に相談に訪れているということで、現在、対応しているところでございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

だから、現状で、そらもうやってくれて

ありがたいですよ。でも、そこに行けない子もいるじゃないですか。

例えば先生に相談します。でも片や先生と一緒にいじめに加わっていたというような情報もどんどん流れてますよね。そういった中では、うちの先生も、どうかなと思って相談できなかつたりしますよね。近くの人やったら、いや、そんなうわさにたつから相談しにくいわ、親にも言いにくい場合だってあります。いじめられているということ。

でも、それがネットとか、そういうことやと、匿名やから相談できるわとか、いろんな、それはね、いじめられている子の側に立たないと解決しない問題やと思いますよ。

こちらが、こだけ場所、提供してますから、どうぞというのではなくて、いじめられている子が、どこで相談したいと思うかはわからない。だから、できる限り相談窓口をつくるほうが良いと思います。だから、和歌山県の知事なんかは関係ないですよ。でも知事とこに直接、そのいじめられている子が、こんなことをありますということメールやファクスで相談できるような仕組みもつくっているんです。そういった特徴的な取り組みというものをもっと研究して、いろんな複数の場というものを用意していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

いろんなやり方があるのは私も承知しておりますので、議員の意見も今後の取り組みの中で参考にさせていただきたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

ぜひとも、いじめられている側の立場に立って、検討していただきたいと思います。

何でこれほどまで必死になるかと言いますと、やっぱりね、このいじめという問題は、残された子どもたちにも、すごい傷を残すんですね。大津市で中学生が自殺した件ですけれども、そこでは残された生徒たちがですね、全校生徒から思いを募って、例えば、生徒の中からは、あなたのつらい思いに気づけずにいた、気づいてもとめることができなかつた。とても悔しい、一言声をかけることかできていれば、何かを変えられていたかもしれないと言っているんですね。

子どもたちに、こんな思いさせないために、大人は最悪の事態を避けるために、できる限りのことをしないとイケないと思います。ぜひとも、意見を踏まえた上でですね、複数の相談の場を設けて、生徒会とも連携し、いじめをなくす取り組みをしていただきたいと思います。

それともう1点、9月でも聞いてみましたが、いじめという、何か一くりにされて、どういったものかというものがわかってない。だから、いじめてる側は、ちょっとからかっているだけや、ちょっとふざけて悪口、言っただけやというような感覚の子が多いと思います。

でも、いじめられている側は全然違いますね。いじめてる子に、やはりいじめというものが、傷つけたら傷害罪だし、恐喝や脅迫罪に当たることもあるし、殺人になってなるかもしれないということ、やはりそういった教育というもの必要だと思います。そういったこと9月にもお願いしてましたが、どういうふうに進捗されてますか、

お願いします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

まず学校においては、教育課程の中で人権教育、あるいは道徳の中で、いじめは本当によくないということ、常々授業の中で子どもたちに指導しておりますし、それから教職員については、そういった関連の研修会の数もふやして、みんなが、そのいじめについての認識を高めるという方法をとっているところでございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

ぜひとも、また生徒も巻き込んでですね、生徒会を中心に巻き込んでやっていただくということを検討していただきたいと思っております。

熊本県のほうでは、生徒会が中心になることによって、先生の信頼はなくても、生との信頼はあるから、そういったふうに、いじめを減らしているというケースもありますから、ぜひともよろしくお願ひしたいと思っております。

続きまして、情報発信についてですが、まず、ちょっと順序、変わりますけど、ふるさと納税についてお聞きします。

ふるさと納税をふやすために、私は以前から豊能町の学校を卒業した子どもたちに、豊能町内でのイベント、学校でのイベント風景を記録し、それを卒業生たちに送ってみてはということをご提案させていただいております。

それに対して、乾総務部長は、何回か政治意識でもパンフレットを配布しているが、ふるさと納税をしていただいたことはない

と答弁されました。非常に驚いたわけですが、ふるさと納税をしてもらう人は、例えばどういった人を対象にしていますか、お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

ふるさと納税につきましては、豊能町の場合三つの目的を定めてですね、ふるさと納税を募集しているところでございますが、全国の方々でですね、そういう趣旨に賛同していただく方、または、一番理解を示していただけるというのについては、やはり豊能町から出ておられる方というのが一番の対象になるのではないかとというふうに認識はしております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

多分、成人式で配るとというのが、あんまり意味がないかというふうに感じるんですね。まだ、学生の人も多いし、とりあえず成人式に来るということは、豊能町に住民票がある人ですよね。その人たちにふるさと納税ありますよと言ってもほとんど効果ないんじゃないかなと、やはりするのであれば、他市町村に出ていっている、働いている30代から50代ぐらいの人たちですね、そういう人たちに発信していかないといけないと思うんですが、この組織の運営としてね、成人式で配るっていった場合に、なぜこれがずっと担当者、課長、部長を通過して、それが通っていくかがよく理解できないんですね。そこら辺が、なぜ、それをとめることができないのかなと、やはりそれでも効果があるというふうに感じておられたからしたんですよね。ちょっとお聞かせ

ください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

効果があるという点ではですね、必ずしも成人式は豊能町に住んでおられる方だけじゃなくてですね、もう既に出ていかれてる方等についてもですね、成人式に参加をしていただけるというふうになっておりますので、そういう方々を対象といいますか、そういう全部の方々にですね、渡すという機会、なかなかそういう機会というのがございませんので、成人式のときにお渡しをしたというような経緯でございます。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

そうですけど、ほとんど豊能町にいる方だと思いますよ。学生さんとかが多いですから、やはりそういったPRする場合は、対象のターゲットというものを明確にした上で、それに基づく戦略というか、方法というものを練っていかないと、とりあえず人が集まるから渡したって、結局、効果ゼロですよ。一切、納付していただいたことがないと言ったら、明らかに失策ですよ。

そういったことじゃなくて、もうちょっとターゲットを明確にすることによって、そういったのは変わってきますから、そこら辺をぜひとももっと、部署内で検討していただきたいと思います。

あと豊能町の問題として、ふるさと納税に関してもそうですけれども、豊能町で学んだ子たちが出ていってしまう。そういった人たちに私は豊能町を思い出してもらうために、DVDにして学校やイベントで配

ればということをやっています。

田中町長におかれましても、何とかUターンの施策として、先ほどの答弁で広報誌に載せるというふうにおっしゃってましたけど、多分、やはりね、分けていかないとだめだと思いますよ。転入転出を考え、転入を促進するのであれば、やはり多いのはUターンよりも近隣に住んでいる人たちです。だって、勤務地は移動せずに家だけ移動すればいいんだもん。

やはりUターンとか他府県にいる方を呼び込んでこようと思ったら、仕事からかえる必要がある。仕事がきりついたり、何かあってこそ、ここに来れるわけですね。でも、他市町村に住んでおられる方、勤務地かえなくて、何も変わらなくて、家だけかえられるわけですから、その発信するにしても、ふるさと納税は他市町村に、そういった形で促す、東京で働いていても豊能町を思い出すことによって、ふるさと納税しようかなということを促すことにつながるし、やはり人口をふやすということに関しては、やはりもっと近隣の中で、川西市よりこんな方がいいよということをPRしていく必要があると思います。

そこでですけど、先ほどの広報誌で豊能町、こんなことやっていますよと言いました。でも、他市町村に比べて、すごいことっています。僕かなりいろんな近隣は見てますけど、ないですよ。ほとんど豊能町がほか、例えばほかよりも、ほかでもやっていますからね、定住化施策として。そこよりも、おここやったら家引っ越してでも、ここ住むほうがいいわというような目立つ施策ってありませんよ、僕、見てますけど。

だから、まずは、そういったときに載せたところで、自分とこの町でもやってるやん、何が変わるのというふうになってしまってますって。

じゃなくて、まずは、どこにもないようなサービスというものをつくり出して、豊能町は、この分野では、ほかのところのどこにも負けません、見てくださいというようなことをつくって、どんどん広報していかないといけないと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

まずは、ターゲットを絞ったということでは、先ほどの話で言いましたように、こちらに帰って来られるお子さん方を対象に1月号、8月号、そういったところにふるさと納税というものは載せていきます。でするので、そういったことも配慮して、考慮しながらやっていっています。

それと、ここにしかない特徴というのは、新たに施策を打つというのも一案としてあるんでしょうけれども、ここはここよさがある。要は、繁華街が少ない、自然が残っている。非常に他都市と比べても、皆さんいい環境であるということと言えます。

それと、ほかから呼び込むことのもう一つの手だてとしては、これから今のよさ、PR、それと不動産の情報、これがわかるということについては、直接、これから住宅メーカーなり住宅展示場、そちらのほうに直接話はしていききたいと思っています。

そうすると、住宅メーカーの方も家を売るために土地をひっつけて売るということになってきますので、こちらの豊能町の不動産の最新情報を示すということが、さらに豊能町の人口をふやすということになりますし、こういう不動産の情報を示してい

るといのは、多分全国にも類はないと私は思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

永並啓議員。

○7番（永並 啓君）

不動産の情報、そのためにはですね、まず豊能町を知ってもらわないとだめなんですよ。

聞いてもらったらわかりますけど、大阪府に住んでいる人でも、豊能町って知名度全くないんですよ。

その中で、じゃあどうやって豊能町というホームページにたどりつくか、そこが一番ネックになるんですよ。だから、まずは豊能町をPR、豊能町のホームページを見ていただいたら、町長おっしゃるように不動産情報あるかもしれない。でも、そこまで来ることがないんですよ。だから、もっと豊能町をPRしていかないといけない。

一つの方法として、例えば週末、大阪市内の繁華街を歩いたら、都道府県の担当者とか、何とか、山形県こんなですって、職員がはっぴ着てPRしてますよね。そういったこと豊能町でもしたらいいんですよ。

豊能町こんなとこ、大阪ですけど、こんなとこですよ。アンケートに答えてくれたら、ちょっと豊能町の野菜プレゼントします、何といても売りは、家が、一戸建てが1,000万円前後で買えますよと、そういったPRから入らないと、ホームページなんて、まずは、そこに来てもらおうという、そのハードルがすごい高いんですよ。そこをクリアしていくことが必要だと思いますので、時間ありませんから、もっと現状の分析を正しくして、それに合った施策、情報発信なりをしていっていただきたいと思っています。

以上で、質問を終わります。

○議長（福岡邦彬君）

以上で、町政会の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

再開は13時55分です。

（午後1時42分 休憩）

（午後1時55分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、豊能第一クラブの一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて120分とします。

平井政義議員を指名いたします。

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

それでは、午前中に引き続き、一般質問をさせていただきますと思います。

私は、豊能町第一クラブの平井と申します。

午前中から聞いておりますと、なかなかよい質問も出、ところどころでは、よい質問があったように思います。

そういった中で、私は町長の報酬等の減額と総人件費の圧縮についてでございますけれども、まず、この取り組みをされようとしております総人件費の圧縮も実施してまいりますと、この所信表明の中でうたわれておりますけれども、これは、まず、どのような考えを持っていかうとされているのか、まず、お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

平井議員の質問に対して、お答えさせていただきます。

まずは、豊能町の現状をつかむということが、まず大事だと思っておりますので、私は今、職員の皆様に、まず、全部の課を

見させてくださいということで、そこでいろいろ課の話聞かせていただくと、全課に対して、まず豊能町はどういった仕事をしているのか、それをまず、つかみたいと思っておりますので、まずは、そういったことをさせていただきます。

それと、先ほど来から申してまいりましたように、平成26年度から全事業の見直しということ、事業評価をさせていただきますので、そういった二つのことをきっちり見て、それから、適切に判断してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

26年度ぐらいから、この2年間ですな、見させていただいて、その後で決めていこうとなさっておるというお答えでございます。

それは結構なんでございますけれども、やはり、この恐らく、また職員の給与カットやら、いろんな面が出てこようと思うんですけども、豊能町の職員の給与カットは、今5%、そしてまた手当のほうで7%か何か引かれてますわな。そういったものを現状を踏まえて、やはり職員にはですな、仕事がしやすい、また、ほんで士気を落とさないような、やはり考え方も持っていかなければならないと私は思います。

それとですね、先ほど永並議員からも出ておりましたけども、その退職金の問題もありましたわな。この件につきましてですな、やはり私も、これ同感なんです。同じような考えで思っております。と申しますのは、この4年間でね、本当、この1,700万、こんなべらぼうな退職金というのは、普通、一般常識としては考えられない。

それと、報酬の件もですな、前町長の池

田町長は17%カットの、退職金は半額ということであって出られました。

新町長はですね、20%のカット、退職金もカットしないのであればですよ。やっぱりこれは35%ぐらいのカットをせん限りね、池田前町長が、あんだけ頑張ってくれた、今回も池田前町長がうたわれておったんは、退職金も半額にするということであっておりました。これ金額にしてもね、3%の差というのは、4年間で170万ほどですわな。

そして、退職金で、前町長は半額で900万近いですか。その金額の中から、170万引いたかて、730万ほど、まだ新町長のほうが余計いただけると、それは結構なんです。そういったものを踏まえてですね、前町長は、この選挙が終わったら即刻、報酬審議会を開くと、開いていただくということであっておりましたので、新町長には、私はその報酬審議会を必ず開いていただいて、一遍見直すときが来てるん違うかなと思いますけど、そういった考えはどうですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

まず、先ほど池田前町長、たしか最初11%、50%カットという話だったと思います。

それと、まず退職金の話、先ほど来から出てるんですけども、私は退職金というよりは、やはりお金というよりは、やっぱりきちんと仕事をしていきたいというのが、やっぱりまず第一に考えております。

それで、まず必要なのは、まずは日々の20%の給料カットはしてたということで、そういったことを主張させていただいて、

当選させていただいたということが1点と。

あと報酬審会に至りましても、先ほど、そうですね、これまで開かれてなかったという経緯も長期間あるのであれば、そのあたりについても今後、検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

たしかね、報酬審議会が開かれたのは、もう今から10年ちょっと前になると思いますのでね、ぜひこれは報酬審議会を開いて見直しも検討していただきたいというのは約束していただきたい。

もう一度、お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

済みません。ちょっと先ほど私、まず1点修正だけ、池田前町長11%と言ったのごめんなさい、15%の間違いでございました。

それと、報酬審議会についてですけれども、平成15年来、開かれてないという話であれば、そうですね、ということは、全て町長、副町長、議員の皆様全てということという理解でよろしいんですね。

報酬審議会というのであれば、特別職の方というか、全てということですので、平成15年来、開かれてないというのであれば、開いていこうと思います。

以上であります。

○議長（福岡邦彬君）

記録10年ということでもよろしく。

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

ぜひよろしく願いいたします。

次に、吉川支所と本庁、これについてもですね、吉川支所が昭和55年に建設されたのですかな。それぐらいだと思います。

そして、また本庁については昭和45年、こういった二つの本庁、支所とある豊能町でございます。支所についてもですな、かなりの老朽化が進んでいて、本当に、この雨が降ったらすぐ漏ってくると、そういった状態も踏まえてですよ、これ耐震制度もまだされておりませんわな。その辺は今後においてですね、この本庁、支所の耐震制度、こういったものの取り組みについてもですな、やっていかれるのかどうか、お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

本庁、支所の耐震でございますけれども、これまでずっと吉川支所は昭和51年築、本庁は昭和40年、52年、平成7年ということで増築されてきたところでございます。

これまで耐震管理なされてなかったんですが、引き続きちょっと検討はしてまいりたいとは思っております。

ただ、財政状況もございますので、そのあたりは総合的に考えて、検討はしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

そして、結局、耐震化に向けてですよ、進めていこうと思ったら、その耐震工事についていろいろ検討されていると思いますけども、その金額というのは本庁、支所、合わせて、どれぐらいの金額が必要なのか、その辺わかっておれば、ちょっとお答えく

ださい。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

本庁、支所ともにですね、耐震の測定というのは、まだやっておらないというような状況でございます、金額的にもですね、幾らかかるかということについても、まだ、全く調査はしておらないというのが現状でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

この辺が、ちょっと私は、もう町行政に対しても言いたいねんけども、もうそんなにね、老朽化していたら、大体、今の予測でどれぐらいかかるだろうとかね、そういったものもわからんのですか。こんなままだ、本庁、支所だけやないですわね。もっともっとしなけりゃならん箱物、何ぼでもあるん違います。

乾総務部長、もう一回だけね、大体、私の考えでは、幾らぐらいかかるかというのをちょっと一遍、わかりまっしゃろ、それぐらい。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

ほかに建設課長でも部長でも、おわかりになるようでしたらお答えください。

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

学校の耐震等から見てですね、支所と本庁と、3億以上はかかるというふうに認識はしておるところで、これは、あくまでも概算でございますが、よろしくお願ひします。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

そういったものを踏まえてですな、やはり、もうある一定の時期が来たらすよ、そしてまた今、町長はね、この本庁、支所のあり方についてですな、先においても、この二元化というものを絶対にやっいてこうとしておられるのか、それともね、やはり建てかえの時期が来ておれば、一つのもの、箱物を建てて庁舎というものをつくって、やっいてこうと進められるほうが得かというのをね、やっぱり考えていただきたい。

と申しますのはね、こんな豊能町は、そら西と東というて、昔は40分以上かかってましたわ。今、森町通って走ってこれば、15分あったら行き来はできるんです。そんなとこに二つの庁舎が必要かどうかということまで考えて進まなければね、こんな財政再建なんかできませんよ。そんな考えお持ちですか、お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

本庁と吉川支所につきましては、今後、考えておりますのは、まずは本庁で実施すべきサービスとか、吉川支所で実施すべきサービス、それぞれ住民の皆さんのお声を伺って、要は適正に考えていきたいと。

そういった中で、やはりこれ一本にしたほうが良いという話であれば一本ということも考えられますけれども、ただ、今、見ておきますと、確かに15分ということで、非常に距離は近くはなってはきておりますけれども、例えば、こちら東地区でありましたら、農業であるとか、林業であるとか、そういったところの機能は、やはりこちら

にあったほうが良いというようなこともございますし、逆に西地区のほうでは、多くの高齢者もいらっしゃる、住民の方もいらっしゃる、そういった機能は西地区にあったほうが良いということもあるかもしれませんが、その辺につきましては、今後、検討してまいりたいと思いますので、今の段階で一つにするということまでは考えておりません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

先々では、住民の声を聞いたり、いろんなことをして一つがよければ、一つにしていこうという前向きな姿勢はわかりました。

次にいきます。時間早いな、これたつの。

次は、お年寄りに優しいまちづくりですか、交通網の整備、充実と書いておられますけどね、超高齢社会であることを踏まえ、お年寄りに優しい交通網整備、充実について考えてまいりますと書かれております。

まず、この件の、まだ後ろに、法定耐用年数を超過した光風台のエスカレーターについては、国の交付金も活用しながら更新してまいります。

これ4年間の中で更新をされようとしておりますけれどもですな、朝からも問題、質問出てましたな。エスカレーター、これは31年まで行くという話に一応決まってしまうでしょう、その代替案交通会議ですか、その中の答申も踏まえてですよ、前町長が26年度で、これは耐用年数が過ぎるから、もう取りかえるか撤去するか、いろんな議論もありました。そういった中で31年まで5年間延長しましょうという形で進んでいるにもかかわらず、これを載せられてくるというのは、この4年間で必ず更新をされるんですね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

先ほど来にもあった質問なんですけれども、一つは、やはり豊能町だけのお金でやるというのも、なかなか困難な状況もあるかと思っておりますので、国の補助金なども見ながら、早急に進めてまいりたいと。

うまく国の補助金が合えば、この任期期間中には頑張っていきたいと思っておりますが、そのあたりはやはり状況を見ないとわからないので、お約束まではできないと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

ということは、ただ一応書いたと、4年間で更新できるもんならばやろうと。

それとね、さっきから午前中からも話出てましたように、補助金、補助金言うてはりますけども、その国の補助制度がなければやらんわけですよな、ほんで。

それとやね、そのエスカレーターの件でもですよ、これ31年までいったかて、その時点で補助体制というのが、どないなっているかわからんですわな。もっとようになってるかもわからへん、違いますの。その辺までもっと考えな、私はだめだと思えますけど、ほんでこれ今、取り組む必要ないと思えますけど、その辺はちゃんと答えていただきたい。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

今、取り組む必要はないという意味では僕はないと思っております。

と言いますのが、以前、広報とよのにも述べられていたものを、そのまま読みますと、部品の交換とフルメンテナンスが不可能となった場合には、安定性が確保できないことから、平成31年度末までの運転は不可能となりますので、その時点でエスカレーターを廃止することになりますということです。31年というのは必ずしも約束されたような形では載ってなかったと。

要は、それまでに、31年まででも部品がなくなれば廃止することになりますというようなことが、広報とよのにも載っておりましたという理解をしております。

○議長（福岡邦彬君）

田中町長に申し上げます。

質問にきちんと答えてくれますか。

質問がかみ合ってませんので、今の質問、もう一度、平井議員やっただけですか。質問と答えが違ってますので。

○11番（平井政義君）

私が言うてるのは、そのメンテナンスふくめてですよ、26年度で終わるて言うてたんが、メンテナンスがいけるということで31年までになったんですやん、今の話ね。

そういった31年まで行ってですな、その31年度の後、29年か30年後のどなたが町長になっておられるかわからんけど、その人らが考えていくことなんですわな。そこまでの話ですわ、今は。その間に切れたらどないなるかとか、そんなことを今、聞いているのと違いまんねん。一応、31年までいくんだから、その辺はもうちょっと、今、取り組まなくてもいいんじゃないということで話してます。その辺のお答えですわ。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

部品供給は31年でございますけれども、この法定のものは既に過ぎておりますし、あとは既にメーカーというか、一般的にも31年まで引っ張るというよりは、26年ぐらいでやり直すというのが一般的には、機械の寿命からしても適正というふうな判断もありますので、できる限り早急には取り組んでいきたいと、31年まで長くするという気は今はございません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

それほど、先にもってね、気回しされたら、これからの世の中うまいこといきますわ。全て5年ぐらい前に、すばっとやらはったらよろしい。耐用年数きたからやりましょうって、とっととやりはったらよろしいわ。そんな財源もないわね。そやけれども、そんな考えだから、私は腹が立ってくるんですわ。

なぜね、こんなことを聞いているかと言えれば、あなた選挙期間でもですよ、ときわ台のバリアフリー化というのをどんだけうとておられました。それすら載ってないんですよ、これには。

ほんでせんでもええエスカレーターに、何でそない力入れはりまんの。その辺ちょっと、ときわ台のバリアフリー化について、一遍お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

ときわ台のバリアフリー化については、既に着手しているところで、今現在、着手といたしますか、能勢電に対してバリアフリー化に関する図面を今、提出を求めているところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

今、初耳ですけど、もうそんな図面までできてまんのか。提出させる。能勢電車にしたら、もうときわ台のバリアフリー化は絶対、完全にでき上がってるものと、私らは見たらよろしいんですね。図面まであと請求してはるだけやから、そういう理解でよろしいんですね、私らは。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

図面を今、求めているというところにして、まだ、それが決定しているというわけではございません。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

経過といたしますか、今現在の状況を報告させていただきますと、前町長がですね、ときわ台のバリアフリー化ということで、何回か能勢電鉄へ行っていただき、また町の議会の交通特別委員会にも行っていただいて、能勢電としてもですね、一日の乗降客が3,000人を下ってくるということで、早いことはしたいというようなことで、能勢電として、どういうふうなバリアフリー化のやり方があるかと、能勢電として、あと維持管理をしなければならないということからですね、能勢電としては、一定自

分ところで絵をかくということですね、まだ、私らには見せていただいてませんけれども、能勢電としては一応、絵はかかせていただきますということで、我々は聞いているという、現段階でございます。よろしくをお願いします。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

こんな議論してたら長引いて、もう時間足らんようになってまいりますけどもね。そして、その先ほどの町長にお尋ねいたしますけどもやね、福祉のね、福祉のほうで高齢者に、社会があるからね、それを踏まえて、年寄りに優しい交通網の整備、充実いうの、この辺、こっちのほうをお答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

高齢者に優しいということにつきましては、これも当然、高齢者の意見も伺いながら実施してまいりたいと思っております。ですので、例えばバスのダイヤでありますとか、高齢者の意見も聞きながら考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

今のお答えであれば、高齢者だけを対象にしたバス輸送ということで、それは町内のバスを走らすかね、公共交通機関のものを利用しようとしているのか、そんなところすら見えてこないんですけど、その辺はどうなんです。

どのような形で進めていこうとされてい

るかやね、その辺ちょっとお答え願いたいんです。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

こちらにつきましては、まだ、私、就任にして間がないので、高齢者の皆様の意見でありますとか、これにかかわっていただいている交通機関の意見、また、そうですね、社会交通特別委員会、地域公共交通会議、こういった形の御意見とかを賜らないと、なかなかそういったところで決めていく必要が、こういった意見も聞きながら当然、決めていく必要があるかと思っておりますので、今現在、固まったものというのはいりません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

それであればすな、地域交通会議か、今、なんか言わはった。地域公共交通会議、そんな中から住民のお声を聞いたり、進めていくと。

議会に交通特別委員会はあるのは知ってはいますか、そういった議会というものは、ほんなら無視して、そっちだけでされるんですね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

済みません。先ほど交通特別委員会と言いましたのは、これ議会の交通特別委員会ということで、先ほど、はい、それは申しております。済みません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

私語を慎んでください。

平井政義議員、再度、質問してください。

○11番（平井政義君）

あのね、議会の交通特別委員会の中ではね、以前、前町長のほうでは、ときわ台のバリアフリーについても、エスカレーター問題についても、公共交通機関の問題についても、東西巡回バスについても、全てを今、交通特別委員会の中で審議したり、いろんなことをやっとならぬですわ。

午前中の井川議員の質問の中でもですな、交通特別委員会、完全に度外視されてますやん。ただ、地域公共交通会議とね、住民の御声を聞きながら進めるんだったら、交通特別委員会は要らないんですよ。別にあってもものうてもいいんですわ。行政とそっちで進められたらいいんです。

だから、そういうこともありますのでね、私はあえて、今、聞いたんですわ。もう一度、交通特別委員会の位置づけなど、わかっておられますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

こちらにつきましては、正直なところ、まだ就任、間がないので、そのあたりについては理解はしておりません。これから勉強させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

暫時休憩いたします。

（午後2時23分 休憩）

（午後2時32分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

現在は、町全域の公共交通のあり方について、議会の交通特別委員会の意見を聞いて、地域公共交通会議において検討させていただいております。

お年寄りに優しい交通網について検討させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

こっちがほんでね、質問をしますのは、福祉に優しい、お年寄りに優しい交通網を考えてまいりますということはやね、やっぱりそういったことのある程度路線は持っておられるやろ思うけど、それをまた考えていただきたいと、投げかけられても、こんなん仕方のないことなんですよ。

新町長の、これは所信表明ですよ。そういった中でうたわれているというたら、やっぱりある程度の絵のかいた、こういう形で私は進めていきたいというものは持っておられると思って、私はちょっと聞いたんやけれども、そんな形で投げられたら、これほんなら、この書かれているのは、全部まだ、全部こっちに振りかえられて聞いて、それから何事も進めていこうとされているということしか、私らは理解できませんわな。そういうとり方でよろしいんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

私なりには考えは持っております。

ただ、先ほども申しましたように、議会交通特別委員会の御意見も賜りながら進めていかなければいけないということもございますので、それで申しておるところでござ

ざいます。

○議長（福岡邦彬君）

田中町長、考えを述べてください。

○町長（田中龍一君）

私の考えといたしましては、これは私の考えですから、これが実現できるかどうかわかりません。そういう前提でお聞きいただけたらと思うんですけども。

一つは、通勤、通学時間帯につきましては、一定、人が使えるということもございまして、今の路線バス、それ以外の時間帯につきましては、路線をかえて、一般の、要は老人の方とかが使いやすいようなところを回るような路線といいますか、バスです、ね、路線バスとは違った意味のバス、福祉的なバスです、ね、そういったものをやれば、通勤時間帯は一定、経済的にも見込めますし、あとは、その福祉バスの要素のもので、きめ細かくやれば、老人の方の要望も聞いてもらえるのか、もらえるのではないかと考えておりますけれども、これは、やはり阪急バスの経営の話もございまして、そういったことも当然、聞きながらという話になりますから、これはあくまでも私の考えでございまして、これからは、また、関係者も含めて決定していくべきことだと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

町長の描かれたことを今お聞かせいただきました。

通勤とかね、通勤は通勤帯、また年寄りの、昼間の利用するときは年寄りに向けて考えていきたいと思いますということでございまして、またそれは、私と町長で決めるん違うからね。これからの、今後の課題でございまして。

次に入ります。

防災関係でね、耐震化工事、これは町の公共施設の中で、まだ、できてない部分というのはどれぐらいあるのか。

基準がありましたわな、昭和56年以降の建物については、耐震化工事の適用の対象にはならないと、それ以前のもので、箱物で、今、どれぐらいものが、まだ、耐震化工事されずに残っているか、ちょっとお聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

主な町の建物といたしまして、昭和56年以前に建設されたものについて報告をいたしますと、旧吉川幼稚園、それから吉川小学校、中央公民館、それから旧の吉川公民館、これは吉川に移管をいたすものでございます。

それから、町の本庁舎、それから吉川支所、それから消防署、これは今現在、建てかえております。それと、老人福祉センター永寿荘、それから農村婦人の家、それから老人いこいの家、それからふれあい文化センターでございます。

今現在、町、吉川公民館と、それから消防署を除いてですね、9カ所あるというふうに認識しているところでございます。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

そういった中でですな、これ9カ所もまだあったら、この耐震化工事をみな進めていこうと思ったら、どれぐらいの費用が要ります。そういうふうなことは、まだ検討されてませんか。

それとですね、一番の問題は、これやは

りね、児童が通っている小学校でですよ、吉川小学校だけが、なぜ、まだなんですか。学校関係で。

これは教育長に聞かなあかんのかね。吉小は、もう数が、人数が少ないからおくれとんのか、その辺ちょっと教えていただけますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。よろしいですか。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

小学校、中学校合わせて6校であります。まず56年度以降ということで、該当しなかったのは東ときわ台小学校、ここについては耐震診断もしておりません。

吉川小学校については、第一次診断を行いました。その際、国が危険と認める0.3未満には該当しなかったということで、ただ、第二次審査というところまでは行っていないところでございまして、ほかについては全部第二次審査の結果、そういう0.3未満ということで耐震化を行ったということでございます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

はい、ありがとうございます。

それと、あとは各公民館とかね、本庁、支所、さっきも話が出ておりましたけど、そういったものを含めてですな、これからやっぱりどのような形で進めていくかというのが、これ大事だと思いますので、その辺は、やっぱり検討していただきたい。

耐震補強工事をするだけの値打ちがあるか、それとももう廃止してしまわないか、部分、また、新たに建てなければならないと、そういったものを踏まえてですな、やっぱり今後の新しい豊能町、考えて進めて

いていただきたい。私は決して、この田中町長をいじめてるわけでもないんですわ。これが議会なんですよ。

いや本当、それぐらいの考えを持ってですな、これからも進んでいただかないと、こんなもの何ひとつ解決しまへんで。

それと、もう一つ最後ですけどもね、地産地消の推進で、これ書かれてたんで、ちょっと私、腹立ってたんやけどね。というのはね、地産地消、これは東地区の生産地と西地区の消費地を結びつける、東地区でつくった農作物を販売する農産物直売所を西地区に常設することを考えております。

これ西地域でも、この生産者おられますわな。こういったものをやっぱり把握して、もうちょっと考えてですな、主に東地区の生産地とかやね、やっぱりちょっと文書を考えなあまきませんで、こんなもん、これそのまま出したら、やっぱりちょっとかちんとくる人もおりました。西地区かて、かなりの生産者おられますねん、それ知ってはりますか、町長、一遍お答えください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

確におっしゃるように吉川地区でたくさん農産物をつくっておられます。

済みません、これにつきましては、表現がちょっと適切ではなかったと思っております。

ここで申したかったのは、あくまでも農作物を生産される方と、それを消費される方、その両方の方と一緒に結びつけて、そこで新たなきずなといいますか、そういったものを結びたいというふうに考えておりましたので、確かに議員おっしゃるように、表現がちょっと適切でなかった面がありま

したことについては、おわび申し上げます。

○議長（福岡邦彬君）

平井政義議員。

○11番（平井政義君）

これでもうよろしいんですけどね。

町長さんももう大分なれてきはったんや
なと思いますけども、午前中はね、各一回、
一回に誰々さんに答弁しますとか言うては
ったけど、私らのときは名前も呼んでくれ
まへんねんな、もう。

やっぱりその辺はやね、配慮していただ
きたい。私は名前呼んでいりまへんで、そ
やけれども、朝からは一回一回、誰々さん
議員にお答えしますとか、ずっと言うては
りました。それ記録を見てもろたらわかり
ます。私の質問、これで終わります。

○議長（福岡邦彬君）

次に、小寺正人議員を指名いたします。

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

ただいま御指名にあずかりました小寺で
ございます。

昨日、12月4日、衆議院議員総選挙が
公示されました。テレビ、新聞等を見てま
すと、消費税、TPP、原発を今回の総選
挙の三大争点だというふうに取り上げて討
論会もたくさん行われましたけれど、きの
うのテレビの街角アンケートなどを見てい
ると、一番多かったのが、どうも景気回復、
これが一番多かったように思います。FN
Nかな、この世論調査でも33.8%、これ
が景気経済対策を争点と見ていると、原発
は7.9%、消費税は5.9%、TPPは2.
3%、関心は非常に低かったと、こういう
ふうな感じでした。ちょっと実感
とメディア、ちょっとずれてるような感じ
がいたしました。

さて、9月30日の豊能町町長選挙、1
カ月前の8時28日だったと思いますが、

突然に田中町長が出馬表明されました。ど
んな人か、見たことも、聞いたこともない
人が出てこられたということで、早速イン
ターネットを検索してみたら、大阪市政計
画調整局の事務分担表に田中龍一候補の名
前が出てきました。そこまではわかったわ
けです。しかし、それ以上のことは全くわ
からないと、そういう秘密のベールに包ま
れたままの対決姿勢だけはあったように思
いますが、その選挙を戦われたと。

町長選挙の結果は、もうダブルスコアと
いう、圧倒的大差で決着をいたしました。

私たちは、これを民意と受け取るしかな
いなということでございます。

それにしても、出馬表明からですね、わ
ずか1カ月の周知期間しかないのに、田中
町長としてですね、自分の主張、考えがで
すね、本当に住民に理解された、伝わった
と考えておられるかどうか、お聞きしたい
と思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

小寺議員の質問に対して、お答え申し上
げます。

伝わったかどうかというお話ですけれど
も、これは客観的には、なかなかわからな
いことではございますが、たくさんの方の御
指示をいただいたという意味では、私は一
定、伝わったのではないかと考えておりま
す。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

それではですね、私たちにちょっとまだ
伝わってないようなので、10月15日、
初登庁されて、職員に向かって就任の挨拶

を述べられたと、10月19日には臨時議会で所信表明された。

また、町長選挙に当たり、田中龍一後援会ニュースで主張された内容しか見えないので田中新町長の考えている、その政治信条とか、いろいろちょっとお聞きしたいと思います。

所信表明されたわけですが、就任挨拶の中でもう5回ね、所属していたまちづくり団体という言葉が何度も出てくるわけですね。その所属していたまちづくり団体と、田中町長の御関係はどういう御関係なのか、まず、お聞きしたい思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

今現在は、現在といいますか、まず町長に立候補したときには、もうその団体には所属しておりません。脱退いたしておりました。それまでは、その中に入らせていただいて、活動はさせていただいておりました。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

そうすると、そのまちづくり団体というのは、田中町長のブレーンというふうに解釈したらいいのでしょうか。

それとも、そんなんは関係ございません。ただ、ボランティアで参加しただけですと、どちらなんでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

町長になるまでは、いろんな意味で勉強はさせていただきました。

しかし、今回、私の考えで政策をし、今回、選挙に挑んだものでございますので、当然、先ほど話しましたように、既に立候補する前には、この団体から脱退いたしまして、立候補いたしました。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

そうすると、もうブレーンではございませんと、そういうふうに解釈をなさないと、こういうことですね。

それでですね、まちづくり団体に所属してどうのこうのという話が何度も出てくるんですけど、そのまちづくり団体の理念と、田中町長の理念は合致していたんですかね。それをちょっとお聞かせいただけますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まず、今、この公式の場で一つのまちづくり団体について発言することについては適切ではないかと思っておりますので、あくまでも私は、そこで勉強させていただいて、それから、また、私の独自で政策を考えて立候補いたしましたという以上、ちょっとお答えのしようがありません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

勉強の場として、その場におりましたと、こういう解釈でいいわけですね。

さまざまな提案をしてきたと、その中で述べられて、でも、ほとんど実現しなかつ

たと、こういうふうにも述べられているわけですね。

どのような提案をされてきたのか、私たちには全く伝わってこないの、どのような主張をなさってたんでしょうか。提案をいっぱい上げたけど、ほとんど実現しなかったと、こういうふうにも述べられてるはずですね。どのようなことを提案されたのか、ちょっと教えてください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まず、まちづくり団体に入ってからという、まちづくり団体から提案したことについては、この場でお話しするべきことじゃないと思いますし、議員の皆様方とも、もう御存じのことかとは思っておりますので、ただ、まちづくり団体に入る前に、私が提案させていただいたことといたしましては、西地区において、農業直販所を設置したらどうかということは、入る前には提案させていただいたことはございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

それからですね、これはうわさであります、多分、本当だろうと思っておりますので、あえて聞きますが、ことしの2月にまちづくり団体、町長がおっしゃるまちづくり団体に既に町長選挙の出馬の意思表示をされたと、こう聞いていますけれど、それは事実ですか。

○議長（福岡邦彬君）

小寺議員に申し上げます。

うわさで質問しないでください。

撤回してください。

○5番（小寺正人君）

うわさね、ちょっと困りましたね。

私の聞きたいのはね、まちづくり団体から推薦されて田中町長が出られたのか、田中町長が、みずから出たいからね、まちづくり団体の人に応援してねと言われたのか、どちらでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

微妙な質問しないでください。

きちんと質問していただけますか。

再度、小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

それじゃあそれ飛ばしまして。

それからですね、池田町政の間にですね、エスカレーター問題、これが発生したことは御存じのとおりであります。住民の反発を招いたのも御存じのとおりです。

そして、代替案検討委員会、検討委員会と略して言いますが、結論を出したのは時期尚早との判断で一致し、結論を出さずに終結するということになったと、こういうふうに表示されているんですけど、これについては、田中町長は何か異議があったのでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

まず、これもちょっと繰り返しになるんですけども、私ども一般の住民に入ってきた情報は、広報とよのに載っておりました情報で、こちらには、要は部品の供給とフルメンテナンスが不可能になった場合には、平成31年の末までの運転は不可能となりますので、その時点でのエスカレーターは廃止することになりますという情報しか伝わっておりませんので、要は廃止するということについては、私は異議があっ

たということでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

それで、町長になられまして、引き継ぎをされましたよね。その引継書には、廃止すると、こういうふうに書いてございましたでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

引き継ぎと言いましても、膨大でございますので、ここの部分については、特にはなかったし、ただ、報告書、ここの報告書の中では当然、ここに、報告書の中に書いてあるようなことについては、見ておりますので、そういった意味では直接は。

○議長（福岡邦彬君）

質問にだけ答えてください。

○町長（田中龍一君）

直接的には、そういった引き継ぎは。

○議長（福岡邦彬君）

あったかなかったを答えてください。

○町長（田中龍一君）

なかったです。

口頭ではなかったです。ですから。

○議長（福岡邦彬君）

お下がりください。

町長、お下がりください。

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

私、町長が就任されて、すぐに情報公開請求をいたしました。どう書かれた。

こういうふうに関後の対応欄を見ましたら、エスカレーター更新は、平成30年度に行う必要がある。平成28年度に予算要

求、平成29年度には業務委託、平成30年度に更新工事のスケジュールとなると、こういうふうに関工程表までつけて引継書を引き継がれたと、こういうふうになっています。

私としたら、うそをついてなかったんやと、安堵したわけですけど、どうですかね。池田前町長は、うそをつきませんと何度もおっしゃって、このとおりに引継がれたわけやから、これをまだ、ごらんになってないんですかね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長に申し上げます。引き継いでいないということについて、撤回されるか、きちんとお答えください。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まず、口頭では引き継いでおりません。

済みません、文書については、私、見過ごしていたかもしれません。

○議長（福岡邦彬君）

この際、暫時休憩いたします。

（午後2時58分 休憩）

（午後3時11分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

先ほどの引継書には確かに書いております。それについてはおわび申し上げます。

ただ、私に先入観がありまして、広報とよのでは廃止するという先入観を持って、これを見ましたので、見落としてしまったということでおしわけございません。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

そうすると、朝方から、そのエスカレーター問題で答弁されてた件は、これをもう一度もとにして、もう一度お考えになったほうがいいですね。これからの答弁はね。これを破棄するのか、引き継ぎ事項を破棄して、自分のやり方でやりはるのか、この引き継いだままやりはるのかね。それはどうですかね。一応検討されますかね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

私といたしましては、やはり補助金のあななしというのがありますから、早急に取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

池田町長の考えは、私はもう平成24年1月4日のところから聞いておりましたので、決して廃止するなどという言葉は言っておられなかったんです。それは事実。それでお聞きしたのはね、住民が、たとえ100万円でも出してあげると言ってくれたら、もうそれだけでいいと言わはった。もうそれ以上は望まない、こういうふうに言われました。だから、我々はうそだ、うそだという、何か風聞がありましたけど、そういうことですので、心受けとめてあげてください。

それで、次は電子自治体クラウドに関して質問でございます。

電子自治体クラウド、これはどうしても豊能町に導入しないといけないという観点からですね、あと第一クラブは、4月、5月、6月、7月、10月と北海道、九州を

視察してまいりました。いろいろ参考になることを習得してまいりました。

臨時国会が11月16日、解散されてですね、共通番号制度、マイナンバー制度と呼ばれているやつですね、これがまた8月に続き流れました。廃案になりました。廃案というか、継続審議になっていると思いますけども、このマイナンバー法案がもし11月に可決しておれば、一体、どういうことになっていたかということとは認識されていますでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

マイナンバー法案については、まだ通っていないので、何とも言えません。当然ながら、通ってから町として実施していくかどうかというのは考えてまいります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

町長申し上げますけどもね、通ってから考えていくんじゃないですから、通ったら従わなあかんから、もうちょっと答弁きちんとしてください。

○町長（田中龍一君）

申しわけございません。

通りましたら、やはり国の指示に従いまして、粛々とやってまいりたいと思います。済みません。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

マイナンバー制度が通るとですね、2年ぐらい、どうもかかるという話なので、早く、これは考えておかないといけないということですので、御忠告させていただきます。

それからですね、現状、要するに豊能町の現状の情報処理システム、これはどのような今、問題を抱えているのかね。

また、将来的にはどのようにしていかないといけないと考えているのか、そのあたりを、お考えをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

現在、豊能町も情報化推進計画に基づきまして、情報化の推進を進めておりまして、基本的には住民基本台帳のネットワークとか、公的個人認証サービスの構築、あるいは図書館の情報のクラウド化、あるいは財務会計システム、あるいは文書管理システム等についてコンピュータ化をしておるところでございまして、今後はですね、これも大分前から、そういうコンピュータの更新時期が5年に、それぞれの機械で5年に1回ずつ来ているというような状況にございます。

やはり前からも御議論しているとおりにですね、違う業者にかえていくというのはなかなか難しい。また、町の職員もですね、それに精通した職員がなかなかおらないというふうな現状もあるというのが、今の認識でございます。

ただ、クラウド化に向けましてはですね、今、大阪府のほうにもですね、大阪府内の市町村においてですね、クラウド化についての研究がされてまして、今年度中に、その結果が出されるというふうになってます。

一定聞いておりますのは、例えば20万人以下の小さな団体についてはですね、クラウド化をするほうがですね、一定成果が上がるのではないかとというような情報も聞いております。

ただ、デメリットもたくさんあるということで、いかにどうデメリットを克服していくかということがですね、そういう研究会で報告をされるというふうに思っています。

それが報告をされてですね、ほかのそういう小さな団体が大阪府内で一緒にやろかというような話になればですね、来年度以降は、そういうやろうと、導入していこうという団体ばかりが集まってですね、そういうクラウド化に向けた、進めていくというような方向になるのではないかなというふうに思っているところでございます。

ただ、それに、クラウド化に行くについては、初期経費といいますか、うちの今の持つてる電算からデータを移し直さなあかんとか、いろんな問題は出てまいりますけれども、そういったような問題も大阪府内の市町村と十分協議をしてですね、進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

そうすると、豊能町としては、共同化でいこうという考えを持っておられるということですかね。

共同化ですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

やはりスケールメリットを求めようとするれば、多くの団体でですね、大阪府、府内の団体であれば、一定、様式、打ち出すもの等についても似通ったものでございますのでですね、できるだけ、やるとすれば大阪府下の団体ができるだけ多く参加してですね、スケールメリットが出ればよいなというふうには思っております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

共同化ということになりますと、プライベートクラウド、これを目指すということになりますけれど、オープンクラウドという、それは検討してありますか。したことはありますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

オープンクラウドということですが、大阪府の、そういう研究会の中で、どういうふうに研究されてるかというのについては、私まだ、はっきりとは聞いておりませんので、そういった点もですね、恐らく検討されているのではないかというふうには思っておりますので、また、報告書等を見てですね、ほかの市町村と同じような、よその市町村もやろうということになれば、豊能町もできるだけ参加をしてですね、一つのクラウド化について検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

今の話は共同化の話、私が言うてるのは、オープンクラウドやから、ほかの町村がね、共同化しないと言っても、単独でオープンクラウドに乗ること、可能なんです。だから、そういうことをまだ検討されてないと解釈したらよろしいですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

今現在は、大阪府内と一緒に、府内の市町村、やるとことやりたいというふうには思っております、オープンクラウドについては、まだ研究もしておりませんし、私どもの単独で、それだけをやるとということについては、まだ今後の府の結果いかんやというふうには思っております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

何度もあれなんで、恐縮なんですけども、やっぱり人的な問題ね、職員の専門性の確保がどうもできそうにないと、日進月歩で進む、その情報技術の変革についていくのが非常に困難な状態というふうに考えられるわけですよ。だから、前々から提唱してますね、IT技術者の、その任期つきのCIOとか、最高情報責任者を任期つきで雇って、2年やったら2年、3年やったら3年、その人に教育とかやってほしいことを委ねるという方向を一度検討してみられたらどうでしょう。

田中町長どうですか。CIOわかりますかね。

○議長（福岡邦彬君）

もう一度、小寺正人議員、きちんとした質問してもらえますか。

○5番（小寺正人君）

要するに、今の情報を聞いてますと、職員の技術レベルでは、もうこの情報技術の変革についていくことは非常に困難だと、今の状態ですよ。将来は別としてね。だから、もう任期つきの職員ね、特にCIOと呼ばれる人を任期つきで招いて、その人に託してもらおうほうがいいんじゃないんですかと、どう考えられますか、田中町長の御見解をお聞きしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

確かに、コンピュータは日進月歩でございますので、そういった考え方もあろうかと思えます。

ただ、今、先ほどもありましたように、こういう大きなシステムが導入される時には、例えば大阪府が音頭をとって、自治体集まって勉強会をしたりとかすることもありますので、小寺議員のおっしゃっていることも考慮に入れながら、また大阪府下で共通して入れるということもあり得ますので、そういったことも勘案して、今後、検討してまいりたいと思えます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

ちょっとですね、とにかく早くやらないと、マイナンバー制度、これは多分、通常国会で必ず通ると思えます。通過すると思えます。2年、もう猶予しかないのでもう少なくとも来年度にはもう着手しないと間に合わない、そういう状態だということをお聞きしたいと思えます。

それとですね、上下水道のシステムも老朽化してですね、そろそろかえる時期に来ていると思えますので、これもあわせてですね、クラウド化を図るといふ、そういう考えはございますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

高上下水道部長。

○上下水道部長（高 秀雄君）

上下水道部のクラウド化ということなんでもございますけれども、現状、使っておりますシステムにつきましては、平成19年4月より平成24年3月31日まで5年間

のリース契約を行ってございました。それがリースアップということで、今年度は保守契約だけをやっただけで使っているという状況でございます。

今、現状といたしましては、新システムへの移行という準備の段階でございます、今年8月から公営企業会計システムと水道料金システムの両方に実績のある業者にヒアリングを行っております。それとデモンストレーションも行っております。

その中でクラウドのシステムにつきましては、ハード面では容易に維持管理ができるということはわかっておりますけれども、ソフト面につきましては、画一的なシステムしか提供ができないというような状況を今、聞いております。

それで、水道料金につきましては、全国の自治体、異なった料金体系になっておまして、それを反映するというのは非常に難しいという意見を聞いております。カスタマイズするといつても、非常に料金的にかかってくるということで、今のところ非クラウド化の今までの現状のシステムを使用するほうがメリットが大きいのではないかなという状況で、今は検討を行っております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

今の現状のままのやり方でいくと、さっきの共通ナンバーね、マイナンバーの話がうまいこと、多分いかならないと思えますよ、それね。だから、一緒にやっぱりやるほうがいいと、私自身は感じてるんですけど、どうですかね、マイナンバーは考えておられます。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

高上下水道部長。

○上下水道部長（高 秀雄君）

先ほど申しましたように、シミュレーションなんかをやっていた中でも、なかなかシステムの中身が水道料金には適合していないというような状況です。ただ、会計システムにつきましては、どこの自治体も同じ公営企業を使っておりますので、同じ内容なので、使用は可能だと思うんですけれども、ただ、よその各団体にもアンケート調査をさせていただきました。その中でも今のところ検討している団体はございませんし、上下水関係について、クラウドを導入するという意向はございませんでしたので、町といたしましても、今、検討はしておりますけれども、なかなか困難ではないかというように思います。

マイナンバー制の関係につきましても、今のところ上下水道としては考えておりません。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

マイナンバーの話はね、全てのところが扱わないといけないので、考えていないでは多分だめです。だから、必ず考えてください。2年です。余裕はね。

それからですね、町長の所信表明の中でね、吉川支所の機能強化の中に、そのイントラネット、インターネットと読み違えられたと思いますけど、イントラネットの充実で、吉川支所の充実を図ると、このように述べられたんですが、これは具体的には、どのようなことを言っておられるのか、ちょっと教えていただけますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

どういうことかといいますと、現在、吉川支所のほうで、いろいろ受け付けをしておるところでございますけれども、やはり職員は、少ない職員で対応していると、そこで専門的なことを、もし聞かれた場合に、支所の職員では対応できない場合があります。そういった場合に、例えば本所の職員が、そのコンピュータを介してイントラネット、庁内LAN、もしくはインターネットテレビ的なものですね、ああいったもので直接、お話しできるようなことができれば、支所に来ていらっしゃるお客様が本庁の職員の方と、その画面を通して説明を受けれるということは考えられるんじゃないということで、そこで、そのイントラネット、もしくはインターネットで充実したらどうかということを書いております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

いわゆるグループウェアと呼ばれるやつを充実しようと、そういう意味ですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

手法はグループウェアになるのか、それとも、もうインターネットでなるのかというのはあれですけども、いずれにいたしましても、要は対面、画面を通じてでも対面で、もしお話しできるようなことができれば、離れていても説明は受けれるという意味でございます。ですので、手法というよりは、結果的に、そういったことができ

れば構わないと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

小寺正人議員。

○5番（小寺正人君）

どうも、これで私の質問は終わりとなります。

ありがとうございます。

○議長（福岡邦彬君）

次に、川上勲議員を指名します。

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

それでは、御指名をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

年をとると脳のしわが伸びて記憶がすぐなくなってしまうので、けさからの一般質問の中で気になったことがございますので、まず、それから質問をさせていただきます。

3番目の分で町長の所信表明の中で、出てきました、職員に対して、住民はお客様であるので、「おはようございます」あるいは「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」ということを言えということをつたたび答弁されておられましたけれども、このきょう朝9時半から議会が始まったときに、一番最初に井川議員の質問で、答弁に立たれたときに、おはようございますとは言っておられなかった。これはどういうわけかと言っておられなかったか。その辺のところを先にお聞きしたいんですけども、よろしく申し上げます。

○議長（福岡邦彬君）

川上議員に申し上げます。竹谷議員がトップでございますので、ちょっと訂正お願いします。

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

申しわけございません。ちょっと初の一般質問に対する回答でございましたので、そのあたり、ちょっと緊張しておりまして、忘れておりました。申しわけございません。

川上議員、こんにちは。

○議長（福岡邦彬君）

町長に申し上げます。

余分な答弁は結構です。

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

やはりリーダーシップを発揮しようと思えばね、トップの人が率先して、やっぱりそういう言葉をしなければ部下はついてこないということでございますので、以後は、やはり気をつけていただきたいと思います。

それから、もう1点、所信表明で3番目の町長の公約、つまり所信表明でございますけれども、町長の報酬は20%下げるということを町政方針に書いたけれども、その退職金は書いてないと、だから、それはしないんだということを、たしか聞いた。以前の質問で聞きましてんけどね。ということは、あべこべに考えたら、書いてあることはする、全部しますということですね。答弁、お願いします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

これにつきましては、まずは、ここに書いてあることについて、当然ながらやってまいりたい。やっていきますけれども、よりよい手法があれば、また、皆様の意見も聞きながらやってまいるという意味では、ここで書いてある方向性は、これですけれども、ここに書いてあること、より以上のことがあれば、やってまいるという所存でございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

もう1点、今度はね、書いてないことはやりませんということは、あなたの任期期間中、4年間、この所信表明、あるいは町政方針に書いてなかったことはやれないんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

やはり、先ほどの、要は日進月歩で、時代というのは進んでおります。ですので、現時点では、私は、これがいいと思ってやっておりますけれども、情勢が変わった場合は、そのとき、そのときでベストなことをやっていきたいと思っておりますので、ここに書いてないこともやるということはあり得ます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

ということは、元に戻って退職金も、書いてないけども、3年間のうちに考え方が変わり、事情が変わったら退職金のことも考えていくということのように理解してよろしいですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。精いっぱい頑張っております。ただ、確におっしゃるよう、どういう情勢になるかもわかりませんから、それは削減ということも、それはあり得ると思います。未来の話ですので。ただ、私は現時点では一生懸命頑張っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

ということは、今後、情勢によっては削減もあり得るといふぐあいに理解をさせていただきます。

さて、考えてきたことを次に順序を追って質問させていただきます。あと正月も1カ月弱で来ますね。昔からお正月には、歌の文句にありますように、たこを揚げたり、こまを回したり、そういうことを昔から言いますね。たこはね、風がなかったら揚がらないわけですな、だから、風のあるところを選んでたこ揚げする遊びをするということを昔から、私もしたし、そういう遊びをしておりましたね。

今、総選挙の真っ最中ですね。きのう公示されて、10以上の政党が乱立して、政党間を、あっちがいいかな、こっちがいいかなと渡り歩いている国会議員、あるいは候補者がおりますな。そういう人たちを一般的に渡り鳥と言いますねんね。渡り鳥は自分の安全なところを求めて渡っていくわけです。ということは、言いかえれば、自分が当選しやすいところね、そういうところを求めてあっちの政党、こっちの政党、渡り歩いているさまを渡り鳥と言いますねんけど、私は、先ほど申し上げましたようにね、そういう人は、たこやなどと思ってますねん。たこは風がなかったら落ちてしまいまんねん。3年3カ月前ですか、民主党の、ごっつい風、吹きましたわな、300何人の当選しましたわな、今は、この大阪においてはね、維新の風が吹いてまんねん。維新の風という風を求めて候補者はね、右往左往しているわけですわ。

自民党の人もおるし、もちろん民主党の人もおるし、新人の方もおるしね。しかし、

私は、この維新という風は、きつい風ですわな、きつい風ほどやむのは早いということは、この16日は、その風が吹きやんで、維新の風が吹きやんで、恐らく、そのほうに行った人は全滅ちゃうかいなというぐあいに思ってますねんや。

そういうことで本題に入ります。まず、高濃度汚染物、つまりドラム缶の処理についてね、猪名川上流広域ごみ処理組合、つまり国崎クリーンセンターでの処理はできるのかという質問書を出させていただきまして、まず、さきの豊能郡環境施設組合での質問で、そういう質問を私するとね、これから、クリーンセンターに申し込んでするということにおっしゃってましたけども、多分、答弁は施設組合のことであるので、ここでは先んじて答弁できませんという答弁があるというふうに想定してね、思ってますけども、先ほどね、大阪府の職員のことを云々されてましたが、あれは施設組合のことですので、それを言うておられましたので、豊能町長として、この件について、どういうぐあいに、クリーンセンターの件で、どういうぐあいにされたか、ちょっとお尋ねします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

先ほど申しましたように施設組合の話でございますけれども、その中での、議会での発言の内容でお答えさせていただきますと、今、国崎クリーンセンターについては、一つの、無害化の一つの大きな手段でございますので、副管理者とともにお願いに行きたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

あれから半月ですかね、ちょうど半月ぐらいやね、たってますね。その間、何か行動を起こされましたか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

その件につきましては、能勢町長ともお話ししたんですけれども、現在、選挙等で大変忙しい時期ですので、それ終わってから話をしに行こうかということとは話しました。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

残された期間はね、あのときにもたしか私は申し上げました、行政というのは不連続の連続、連続していかなければならないことと、不連続というのは一旦、そこで町長がかわられたんで、新しく切って、新しくやる。これも行政の一つの手段ですな。ダイオキシンに関してはね、あるいは先ほど出ておった耐震化の問題はね、これは必ず連続してやらなあかん問題ですわ。耐震化せんかったら、いつか地震、起こってやね、つぶれるかもわからん。ダイオキシンの処理をせんかったらね、ずっと処理せんかったら、何も済む問題違いまんねん。必ず費用はついて回りますねん。

それも100万円、200万円違いませ。あのとき、たしか年間5,000万円、言うとした。そのうち豊能町が持つ金が4分の3であればね、3,600万~3,700万円ぐらい持つわけですわ。ほっとけば毎年、毎年、それだけの金が要っていくわけ

ですわ。これは必ずね、近いうちに、それこそ野田総理大臣じゃありませんが、近いうちに必ず処理せなあかん問題ですわ。ましてや高山のドラム缶の置く契約はね、来年の10月の末ですわ。それ以後は、どこか持っていかなあかんねん。そんな選挙があるよってに、次に回しまんねんとか、そういう問題とは違いまんねん。

そのことを、どういうぐあいに思っておられるか、考えておられるか、答弁をお願いします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

確かにおっしゃることはよくわかります。ただ、これ相手といいますか、当然、お願いに行く相手のこともございますので、今は非常に忙しい時期もということもありましたので、能勢町長とも話をして終えてからということでは話しております。

急いでやらなければいけないということは認識しております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

能勢町長と話をしていることは、豊能郡環境施設組合としての話ですな。それと同じくね、この猪名川上流広域ごみ処理組合は、豊能町の町長も副管理者として入ってまんねん。そしたら、内々でも話しできる機会は何ぼでもあるわけですわ。そのごみ処理組合は選挙、一切関係おまへんねん。だから、話す機会は何ぼでもあるよってにね。そんな悠長なことを言うてんと、一日も早く、これは行動するのが、これはトップの役目ですわ。そうしないと、午前中か

ら出ておった職員に、四つの項目ありましたな、その2番目に経費の削減、これを職員に求められておられるわけですわ、町長がね。

そやけど町長はやね、そういうことを努力、一日も早くする態度を見せんとやね。何や町長、おまえ、あないして口で言うてるけど、ダイオキシンの問題、どないしょんねんと、言うこと聞きまへんで、これ、トップみずから体で示さんと。その辺のことを、どういうぐあいに考えてはります。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

先ほどの国崎クリーンセンター、こちらにつきましては、私、行くたびに局長の方にはお話は差し上げましたけれども、その中では、よい返事はいただけなかったということですので、これは、その国崎のほうには、私、行ったときには話しております。でも、よい返事はいただけなかった。これやはり、そこのトップである市長、町長にお話をするという必要があるかと思っておりますので、それで私1人で行くというよりは、当然、2町一緒にそろって話をしていくというほうが非常に大事だと思っておりますので、それで今現在、この時期を待っていくということで、私なりにできる範囲では国崎のほうの局長様には、そういった話はさせていただいております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

基本的にね、事務局というのは、あくまでも事務局であって、是非の判断はできないわけですわ。だから、能勢の町長と一緒に

に行かれるのであれば、すぐにでもアポをとって、これ行かんとやね、だんだんだんだん延びてきまんねん。そらやっぱり早急にしてもらいたい。

それから、もう1点ね。施設組合の事務局は、今、豊能町の中央公民館に、これありますけども、豊能町としての、豊能町の行政としての、このダイオキシンに対する組織といいますか、町長1人でされるのか、それとも、そういうトップダウンの方式でされるのか、そのことは今現在、どのようにされておられます。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

この組織といいますか、この話を進めるに当たっては当然、局長とも話はしております。

○議長（福岡邦彬君）

かみ合っていないようですから。

川上勲議員、もう少しきちんと質問してください。

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

豊能郡の環境施設組合の事務局、これはあくまでも豊能郡の環境施設組合の事務局ですな。豊能町として今現在、現実、高山にあるよってにね。高山におまんねんや。豊能町としてのダイオキシンの、いわゆる町長以下の担当も豊能町の職員は一切、もうそんな関係ないねんやと、あくまでも施設組合の事務局からやってもらうんやと言われるんやったら、それでもよろしいですけども、ならば、私は何のためにね、理事として乾総務部長と川上建設環境部長がね、あの施設組合に行ってられるのか、あれは無駄なことですわな。関係ないとした

ら。やっぱり関係あるよってに、2人、施設組合の事務局の理事へ行っておられるわけですわ。豊能町の中にも、そういう組織をつくって、これはされるのがやね、当然やと思いますねん。

高山におきましてもね、環境施設組合の管理者、池田勇夫管理者が来られたとは誰も思ってません。豊能町の町長が高山に、おかしいことを言うてこられたというぐあいに思ってまんねん。

それが現実ですわ。だから、豊能町長、田中龍一町長として、この高山にあるドラム缶を、どのように処理をせんなん、それも一日も早く処理せんなん。10月の末までに処理できたらええけど、できなかつたら、ほかのところに移さんなん、こういうことをね、念頭に入れて、あたり、その組織をつくって、その組織もやね、ほかのところを探してもらるか、処理できなかつたら、ほかのところを探してもらうかね、そういうことをせなあかんわけですわ、豊能町内で。まさか、今さら能勢町のほうにドラム缶を返すとは、できませんわな。

その辺のことをね。やっぱり延ばすなら延ばすことによって金が要るということをね、念頭に置いて、やっぱりことに当たらんとあかんと思いまんねん。そういう意識を持ってもらわんとあきませんわ。

あのと、私、言いました。4年間、あなたのもとでは、田中管理者のもとでは絶対、ドラム缶はね、処理できひんと、私は、この場でね、確信しますと言いましたやろ。いや、いや、わしはすんねんやという反発心を持ってもろてやね、必ずするということ、ここで宣言してくださいな。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まずは、この話は川上議員も御存じのように、平成9年からずっと、これ長く問題になってきておりました、多くの方がいろいろ苦慮しながら進めてきた問題でございます。非常に難しい問題でございます。それは川上議員が一番御存じだと思っております。

そういった中で、努力は絶対しますけれども、そういった難しい問題ですから、誠心誠意頑張っていきますとしか言いようがないです。といいますのは、これだけ長い間、多くの方が知恵を絞ってやってきたけれども、今現在、残っている形です。私は誠心誠意頑張ります。そうとしか言いようがありません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

それは頑張るとか言うしかないか、知らんけれども、前々の町長から前の町長から、外部処理に関して、たしか30何カ所、日本国中、青森から九州まで、当たってこられて、ないから1年半前ですか、これはもう町内でね、豊能町内で処理せないかんということで、能勢町から豊能町のほうに移して、豊能町が高山へ移して、来年の10月まで保管やと、その間に豊能町の処理する場所を見つけて処理するんやと、こういう決意でしたんや。

それをね、やっぱり、つい先ほどの話じゃない。受け継いで、やっぱりしていく必要ありませ。一から言うたらね、これは不連続になってしまいねんや。連続的にせなあきまへんねん。30何カ所も当たらないねんから、白紙に戻して、そしたら元に戻るわけですわ。そんな悠長なことをし

とったら、何ぼでもね、問題、さあ持っていけ、持っていかへんわ、受入先ないわ、やいやい言うて、組合の費用はね、組合の事務局費用は年間3,500万円、もうちょっと合わせたら5,000万円、2年たったら1億円たっていきまんねんや。これこそ経費の無駄遣いでっせ。ほんまに。

それどない思われます。もうほかのこと何もせんでも、これだけでもやね、解決するんやというぐらいの勢いを持ってもらわなあかん。もう一遍ちょっと答弁してください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。非常にこれ難しい問題でございます。頑張っていきます。それしか言いようがありません。頑張りますので。

○14番（川上 勲君）

日を決めてください。

○町長（田中龍一君）

それはお約束はできません。というのは、これまで何十年と皆さん、いろんな方がかかわってきて、非常に難しい問題でございますので、それは申しわけございませんけれども、お約束はできません。

ただ、誠心誠意頑張ります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

この際、暫時休憩いたします。

（午後3時58分 休憩）

（午後3時59分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

今、ダイオキシンの問題はね、非常に難しい問題やけども、もう去年からことに

かけては、もう富士山の九合目半まで、もう登ってまんねん、実際は。それをやっばり周りの状況をね、あなたは平たく聞いてね、そしたら、必ずね、1年以内に処理ですわ。それだけ言うときますわ。

次にね、もう時間おまへんのでね、次、漢字の勉強をしたいと思えますけどね。この漢字はね、漢字ができた以来説明すると、また、時間が足らなくなってしまうのでね、その漢字についてね、先ほどから検討とか、そういう、その漢字、熟語を使っておられますがね、まず、竹谷議員がね、おっしゃった、その理念という熟語、この理念とは、どういうぐあいに、理念という熟語は、どういうぐあいに理解されるのか、ちょっとお答え願います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

私が思ってます理念というのは、方向性、考え方の方向性というふうに理解しております。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

これはね、辞書で引きますとね、物事を合理的に考え判断する能力を持って得た最高の概念で、全経験を統制するもの、こういうことすわ。そういうことを頭に入れて理念という言葉を使ってもらわんと、所信表明の中で検討するという言葉を使われしましたな、漢字を使ってはりましたな、初めは、検討すると。その検討するという、この熟語の意味は、どういうことか知っておられますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

私が思っています検討するというのは、要は考えていく、実施に向けて考えていくとか、そういった意味だと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

それが大間違いなんですわ。実施に向けて考える違いまんねん。検討という言葉はね、よいか悪いか、是非の判断を考えると意味ですわ。実施に向かって違いまんねん。是非の判断、よいか悪いか、悪い方向も考えるわけですわ。そういうことやから、言葉はね、やっぱり十分理解して、我々もそうやけども、使ってもらわんと間違いが起こる可能性があるということを、まずもって、漢字の勉強は、これで終わりましたね。

次に、町長の公約について、時間のくるまで、一つ一つ細かいところを聞いていきたいと思えます。

まず、このまちづくりを進めるために6項目挙げてね、所信表明はされましたね。あの二重丸の分、たしか6項目ということすわ。これらのね、項目を、私、進めるためにね、職員に対して、何ぼラッパを吹いてもね、やはり町長の片腕となるべき副町長は絶対必要やと思いまんねんけども、この点に対して、あなた、町長、どういうぐあいに考えておられますか。

ひとつ答弁をお願いします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。副町長は必要だとは思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

必要であるとするならば、いつごろまでに、この議会に提案をされようとしておるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まだ、私の今の考えですけれども、来年度から就任いただけるような形でお願いしたいなと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

ということは、今年度中に提案をすることですね、そういうぐあいに理解してよろしいですね。

次にね、この所信表明の中でね、する、行う、進める、図る、こういう語尾というか、述語が出てくるわけですわな。これはするという断言されておられますねんね。

努力する、努めると、これはするのか、しないのかわからんけども、進める方向で考えるということ、進行系ですわな。もう1点ね、考える、思う、これはするのか、せえへんのかかわらんわけですわ。そのことを考えるということは、考えてせえへん、考えてする、どちらかわからん、こういうことが、11カ所、これが検討ということにつながるわけですわな、検討。

進んでいく違いませ、検討するでっせ、言いかえれば、11カ所も出てくるわけですわ。例えばね、総人件費を圧縮するのか、しないのか、あなたのチラシのね、文では、総人件費を圧縮すると、圧縮しますと書い

ておるわけですわ、このチラシ、これね、町長報酬20%などをはじめ、総人件費を圧縮しますと、これはするという断言ですわ。ところが、所信表明かな、これにはね、考えると書いてるわけですわ、これ、どっちがほんまでんねんや。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

ここの表現では実施してまいりたいと考えていますと書いてますけれども、実施していきたいと思っております。

なぜ、こういう形になっているかといいますと、やり方によっては、いろんな方法があると思っております。ですから、そのとき、そのときにベストの方向をやっている方がいいと思っておりますので、ですから、この人件費につきましても、いろんな意味で、その人件費が減らなくてもその委託費を減らすことによって考え方によっては総人件費が減るという形にもなることもあり得ますし、要は豊能町が支払うお金を減らしていきたいというようなことが主目的でございますので、人件費は一つの例というふうに考えていただきたらと思っております。

ですから、そのときにベストなことをやっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

暫時休憩いたします。

（午後4時07分 休憩）

（午後4時09分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

総人件費の圧縮については、してまいります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

ということは、この所信表明で書かれていることはうそなんですね。そういうことです。ちょっと答弁できます。お願いします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

ここに総人件費の圧縮を実施してまいりたいと考えています。方向性については、合ってますので、僕ほうそは書いているとは思っておりません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

実施してまいりたいと考えます。考えますですわ。します違いまんねん。考えます。考えた結果、これは実施できまへんねんということも言えるわけですわ。その辺の言葉遣いをきっちりせなあかんということ、先ほどから言うてるわけですわ。これでわかりますか。これはもうこれでよろしいです。

次にね、住民目線の行政の改革、改善すると、そういうことを考えると、これまた、考えるですわな。住民目線というのはね、いろんな目線あるわけですわ。もう極端に言うたら2万2,200~2,300人の目線があるわけですわ。これを全部くみ取って

されるんですか。ちょっと答弁、願います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

ここで言っています住民目線というのは、例えば企業目線であるとか、行政の目線にありますとか、そういった総体のことを申しております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

あのね、その文章を書いて、それに理屈をつければね、いろんな理屈がつけられるわけですわな。しかし、一般の住民は、ここへ傍聴に来ておられない以外の人は、議事録を見るか、そうせんと実際のことはわからないわけですわ。だからね、あなたが選挙期間中に、選挙期間の前からおっしゃっておった、このチラシの中でね、圧縮します、終結します、促進します、新設します、まちおこしをします、全部、します、しますですわ。

ほんで、この所信表明では考えますとか、思いますとか、こういうことが入っているわけですわ。それで聞いたらね、違う答えも返ってくるわけですわ。だから、はっきり言えば、あなたは選挙に当選するために、住民の方に、こういうチラシをまいて、住民の、ああやってくれるやろうなという期待感を抱かせて当選しただけの町長やということにつながるわけですわ。

それを認識して、結果はどうであろうと、あなたはね、豊能町の町長として当選されたのだから、今後、こういうことも書いた、所信表明も言うた、ダイオキシンの件もある、そういうことを認識して、今、豊能町

の財政は逼迫しておりますわな、貯金、財政調整基金ですか、それが25億円ほどあるわけですけれども、それをさらにふやすように努力してもらい、ひとたび、関東と違って東日本の大震災のような震災が起こればね、5億や10億、すぐいってしまいますねん、当座は。やはり120億内外の1年間の事業費を使う、あなたはトップやねんから、そのことを認識して、行政に当たってもらわんと、わかりませんねん、今から努力しますではね、もう済まない問題、済まない時代に来ているわけですわ。そういうことを認識してやね、事に当たってもらわんと、ああ4年間たった結果、財政調整基金が10億に減りました。5億に減りましたという結果につながりかねんと思うからね。そういうことを頭にたたき込んでやね、行政やってもらわんとぐあい悪いでっせ。

そういう考え方があるのか、ないのか、最後にちょっと答弁をよろしく願いします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

当然ながら頑張ってます、やります。先ほど話してますように、人口を呼び戻すということも、もう既に着手して、もうこの1月号にはお見せできますし、それをもとに、私、プレス発表もする予定もしておりますし、もう既に、いろんな意味で頑張っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

川上勲議員。

○14番（川上 勲君）

頑張ったり努力したりすることはね、そ

れは言えまんねんけども、行政は全て結果で判断しまんねん。そのことも頭に入れてね、やってもらいたい。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（福岡邦彬君）

以上で豊能第一クラブの一般質問を終わります。

以上をもって、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

次回は、12月6日午前9時30分より会議を開きます。

本日は、どうも長時間、御苦勞さまでした。

散会 午後4時15分

本日の会議に付された事件は次のとおりである。

一般質問

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

平成 年 月 日署名

豊能町議会 議長

署名議員 6番

同 7番